6521 15_4_1

謹賀新年
小樽特集号

小樽市 日和山燈台、鰊御殿、水族館

富崎信夫（昭六）

緑丘

全国版
（通巻）No. 29号
（37年度 5号）
大阪市北区曽根崎新地
日本電気機器株式会社内
緑丘大阪支部
編集部
大阪市東区道修町三の一二
塩野義製薬株式会社内
蓁目英三

特集号に寄せて

越崎清二（昭一一）

毎朝緑町から公会堂の坂道を登って通勤を重ねているうちに、ふと、卒業当時のアルバムの写真は、此処が石段であるのに気づいたことがあった。車の数が少なく交通量の微々たるものであった当時とはいえ、公園を突きぬけられなかったことは不便ではなかったのだろうか。その公会堂も、敷地を市民会館に譲って一八〇度方向転換をして、向い側に移転を完了した。

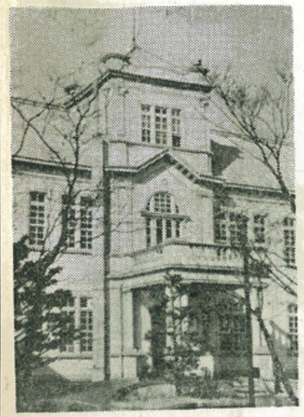
卒業以来二十五年も経てしまったが、地元小樽にあってもつくづく思うことは、よい母校を持ったとの感である。他に例を見ない全国唯一の単科大学の誇りを持つことも、その理由の一つではあろうが、卒業後の同窓間の緊密、有機的な結びつきは、名簿の完備と共に日本随一と云い切ってよいであろう。伝統、環境に加えて先輩層の質のよさ、教授陣の優秀さを思わなくてはなるまい。この意味においても大阪支部発行の『緑丘』の果す役割は過大に評価され過ぎる事はない筈である。

このたび年頭に『小樽特集号』が発刊せらるゝに当って満腔の敬意と感謝の念を捧げたい。

（越崎商店常務取締役）

母校の夢とその実現

学長　加茂儀一



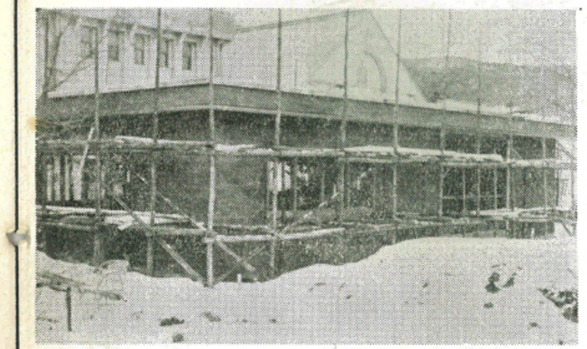
終戦以来十七年を経過した今日になってやっと、母校小樽商大も躍進の一歩をふみ出した感がある。今年になって年来の懸案であった老朽した寄宿舎に代わる新しい綜合寮の建設が実現し、旧二寮三寮の上の小樽としては最も高い場所にしょうしゃな鉄筋三階建ての寄宿舎ができ、二百名余の学生を収容し、夜間に市内から見れば大きいホテルがあるかのような感じを与えている。寄宿舎の名前は私が「智明寮」と命名したがこれは蒙をひらく寮という意味である。寄宿舎からの小樽市内の眺めは絶景の一つで、ことに舎屋の前の傾斜面の上に食堂と風呂場があって、居ながらにして小樽市の夜景を楽しむことができる。

今年は、例の電子計算機を入れる管理科学の新しい建物が図書館の書庫の前側に出きかけていて、面積四十五坪で文部省はこれに坪十三万あたりの予算をくれたので立派なものになると思う。竣工は、十一月末の予定である。それに入れる機械は、IBMの一六二〇型で、今輸入許可のため通産省と接渉中であるが、国産機奨励の時代であるため仲々面倒だが近く片がつくはずで、これができれば全国大学中でO・Rの研究では最初で、しかもトップのものができると思う。この機械の購入については後援会の御世話をうけたのでここに改めて御礼を申し述べる。

なおこの管理科学の設置については文部省は、非常に好意を示してくれ、本年度二名の教官定員を増加し、さらに来年度は五名増してくれることに省議で決定し、大蔵省の許可さえあれば、実現できるので、全定員は本年の二名と合せて七名、それにすでに本学にいる教官を加えて十名以上となり、名実ともにO・R研究と教育では日本の第一人者になる見込は十分にある。その増加分の教官は大部分高等数学の専門家で、小樽商大では今後数学のできる学生でないと進めないことになり、内容的には変貌しつつある。

在来有名であった語学教育もすでにラボラトリの設置によって次第に軌道に乗っており、この実験室には視聴覚教育を主とした最新式の器械があり、米国で斯道の研究を終えて最近帰校した新鋭の二教官を迎えて活発に動いていて、現在では道内におけるこの方面の研究と教育のセンターとなり、夏には道内の高校の英語教官の講習が行われている。

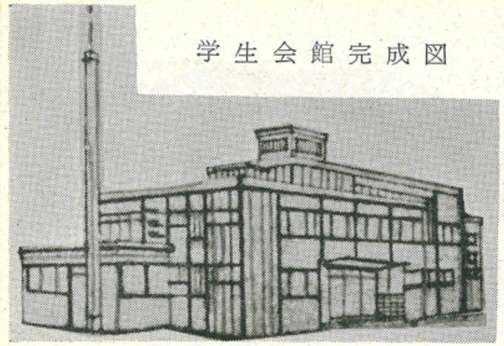
さらに喜ばしいことは昨年の文部省予算で学生会館の計画が許可されたことであって、私もこの二年間足を棒にふって文部省通いをした甲斐があったと思っている。この点についても同窓各位や本学関係者の絶大な後援を感謝している。どんな建物ができるかは、まだ大蔵省の最後的許可がなくては実現できないのでわからないが、二階建の四百坪位のものにはしたい。場所としては元の第一寮（北斗寮）の跡が大体決定している。学生数の一番少い大学である母校にとっては出来上ってからの運営に頭を痛めると思うが、その節は後援会の援助を願いたい。



日本で最初の試みの証券講座も開設してから一年半になり、次第に内容も充実し、いづれその研究所をつくりたいと思っている。それは単に証券界のためばかりでなく、日本経済における企業の分析に大きい貢献をしたいと思っている。

今年は体育館と教官研究室の建物の増設を計画している。明治四十二年当時の建物以来何らの増設もしていない母校は、施設としては全く貧弱で、五十周年を祝った本学も本館の建物の立派なのと、その堅牢さに敬意を払う一方、そうした校宝的建物の内に住んでいる教官、学生、事務員は決して快適ではない。冬季には石炭はどんなにたいても、熱量はどんどん板のすき間から逃げて行ってしまい、石炭消費量も莫大である。午前中の早い時間と午後は三時すぎから教室の中は寒いぐらいである。今後十年を経ても、この建物は決して朽ちないという実に立派な建物であるが、その大切さは別として十年後には全国の大学が明るい便利な、そして火災の危険の少いモダンな建物になってしまうときに一人母校のみが建物が古いということで、それを大切にする余り、そのままそのなかで住みつづけるということは考えものである。建物の保存は別に

学生会館完成図



小樽特集号を祝す

緑丘大阪支部長　天野雅司（大一五）

「緑丘」新春紙上が小樽特集号で飾られるとは最も時宜を得たもので恰も地元の小樽で緑丘支部が結成され、在樽卒業生の会合や会の運営に効率を挙げようとの気運にある時、幸先のよいPRの効果を斉らすこと丶思う。

吾が蓁目編集長は斯様な機微に触れ、直ちに勇断を以て採択し必ず是を実行する真実一路の人である。大阪緑丘支部が、今日迄強く纏まり、色々な行事、企画を以て人心の分散を繋ぎ止め得たのは、皆の母校愛もさる事乍ら、組織に立った幹部諸士の熱心な協力と、就中蓁目幹事長を中心とした年代層の情熱と、氏自ら編集する「緑丘」の魅力に負うところが大であることは明である。

緑丘二十八号紙上に見ると、今や東部も氏の才腕を認め、東部緑丘の編集を委ねたいとか、小樽に来て懲しいとかの勧説をなされたように承るが、蓁目君の今日迄に到る血の滲むような苦心、多忙な社務を終え、帰宅後二時、三時迄もかゝって、編集に没頭した労苦は知る人ぞ知るである。しかし、その貴重な労作は氏が母校を愛するが故に、また支部の隆盛を希うが故になされた事であり氏が熱情溢るゝ素人であるからこそ貴いのであり、其の素人の労作だから光り輝くのである。敢えて今更、氏をプロにさせたくない。そして氏は現在枢要な地位にある会社人であり現役である。

折角の祝辞を手前勝手なこと計り言って申訳ない。

吾々は母校をこよなく愛し続けて居る。智恵と徳と行動を授けて呉れた学舎は、五十年の星霜に苔蒸しながら、港都小樽を一望に収むるところ、緑の樹々に囲まれて、象牙の塔に相応しい高雅な姿を、丘上に佇立して居ることであろう。

そして幾度となく巣立った何十人もの雛は社会の各界に於て極めて高く評価されて居る。これこそ母校の誇りであり、歴代の校長先生や教授先生の頌徳の賜と思う。

戦後民意喪失し、思想混沌の中に在って、東奔西走、大学昇格の宿願を成し遂げられた初代大野学長の後継として、加茂現学長の高邁な識見は学の内外の信望を悉く集められ、学内の革新企画も着々と進み、小樽商大の声望は曽っての大西猪之助時代を再現する期待も大きい。

私はこの名望の母校を持つことに誇らしさを覚え、それが産業経済の理念を教うることに意義を持つ。そして朝な夕な、彼の白亜の殿堂を仰ぎ見る在樽緑丘人士に羨望すら感ずるのである。

往々小樽市の斜陽を耳にし、眼にも見たが商港として、殷賑を続けた過去を持つ此の市がむざむざろう廃に委ねてよいものだろうか。

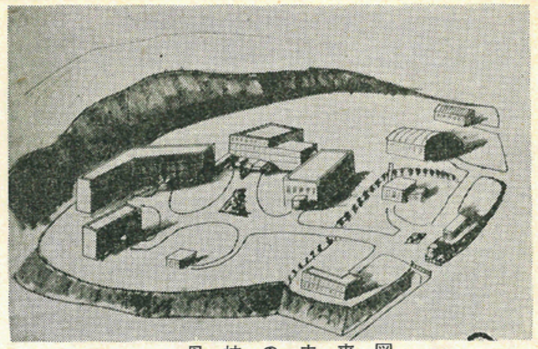
小樽の緑丘人よ！　小樽市民よ！乞う。奮起して下さい。

三七、一二、二六

祝　小樽特集号発刊

名古屋支部長	増田常次郎
京都支部長	森下弘
大阪支部長	天野雅司
神戸支部長	塩谷精一郎

名京阪神支部から



母校の未来図

考えるとして、やはり新しい建物をいまから考えておかなくてはならない。十年後になって考えるのでは実現はさらに十五年後になってしまう。そこで私は現在母校の十年後にあるべき姿を、どのようにしたらよいかということを構想している。幸い文部省はこの構想に着手することを認めてくれたので最近その一つの議案みたいなものを作ってみた。それを参考のために書いてみるのでみなさんも一緒に考えて頂きたく、御意見があれば、その一端でも承わりたい。

母校の置かれている地勢は、御承知のように小樽の一番高い山腹の近くにあり、場所としては絶好であり毎日学生があの地獄坂を登り下りするだけでも健康にはとてもよい。しかし残念なことに面積が非常にせまく、短大や研究所を入れて三万五千坪にすぎず、一般の国立大学の面積と比較すると最小である。従ってこの内で十年先きの時代にふさわしい建物をつくるには土地を造成しなくてはならない。そして大学もやはり外観の宏大さを示さなくてはならない。それには小樽の町中から大学を見たときに、いかにも大きい大学であるという感じをもたせる必要がある。こんなことを頭に入れながら構想してみたのが、次のようなものである。

まづ現在の会館の裏山を削りとって、そこにかなり広い平地をつくりその削りとった土砂でもって現在図書館の西側にある高台の低い崖を埋めて傾斜のゆるやかな坂を、そこにつくる。かくして現在の校門の処から坂を経て、いまの校庭の平面を通ってゆるい傾斜の坂を登って図書館横の高台へ出る。そしてこの全地面の大体真中を通って校門から高台の西の端まで一本の本道をつくり、高台の山側に二階建の教官研究室と経済研究所（これは将来大学院をつくるための用意にしたい）をつくり、現在の本館の裏に造成した土地に将来の鉄筋三階建の本館をつくり、その本館と経済研究所との間に図書館と今ある電子計算機室をおき、本館の東側に講堂と体育館をつくり、その前面の中央道路を経て学生会館があることになる。そして、それに現在の寄宿舎が一番東の端におかれることになる。そして中央道路の本館前の左右には噴水をおき、灌木をうえ、亭などを設定して学園を庭園化する。

かようにして、本学を小樽の町から仰ぎ見ると、左端からひきつづいて教官研究室、経済研究所、図書館、本館、学生会館、講堂、体育館、綜合寮とすき間なく並んで見え、いかにも宏壮な大学の感じがすると思う。こんな夢はみなさんいかがですか。

学園随想

木曽栄作（昭二）

昨夏、盛大に創立五十周年記念を祝った母校小樽商科大学の歩んできた道は憶えばかなり嶮しいものであったと言えるであろう。唯一つ国立単科大学として発足した母校はその規模において最小のものであったが専門学校から大学へと昇格した喜びと誇りと同時にその運営上には想像を越えた苦悩があったことは我々の実感する所である。しかし現在の時点に立つ小樽商科大学は国立大学のうちでも最も特色のはっきりした姿として次の半世紀の歴史を歩み得ることを約束されていると言えよう。

母校の未来像をひそかに考えてみると、どんなものになるであろうか

㈠商学、経済学、管理科学の三大系列化によるカリキュラムの体系化が近い将来に完成されるであろう。

㈡北海道開発計画の進展に即応して母校の科学的研究調査陣の強力な協力が推進されるであろう。

㈢北海道の外国語研究センターが近い将来確立されるであろう。

㈣北海道開発と密接に関連を持つ一学部が新設される必要が近い将来必ず発生するであろうし、これを実現するための努力をすべきであろう。

㈤本学と同系統かつ略同規模の外国の大学と研究交流の協定を結び教授交換等の計画が実現せられるであろう。

以上が私見としての母校の未来図とも言うべきものであるが、これらの諸計画実現の基動力となるべきものは、優秀な人材の招聘と養成にあること言を俟たない。交通の異常な発達により中央都市と地方との観念的距離は縮少されたとは言え、学問の世界における中央集中化の現象は一朝一夕には打破し得ない現実を無視することは出来ない。

我が学園は過去の輝かしい遺産に負う所極めて多いことを実感すると共に、新しい時代の認識に立脚して次の学園の歴史の形成に努力すべきであろう。

（母校教授）

織維製品一般卸

株式会社　神野商店

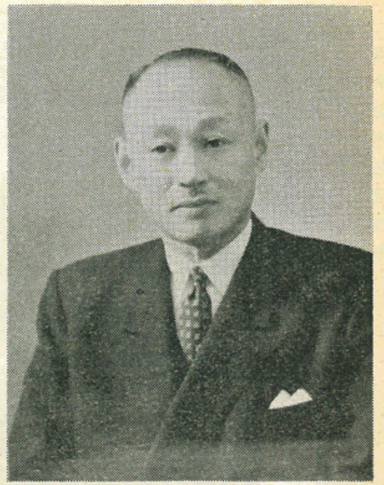
専務取締役　神野章三（昭11）

小樽市住初町1丁目27番地
TEL②0005②1000③3842

小樽緑丘会 発足に当って

小樽緑丘会々長

讃岐梅二（大12）



緑丘会小樽支部は、会員を多数擁し、しかも母校所在の地元であるにも不拘、従来余り活動的でなかった事を不満に思う。有志の方々が、小樽支部は形式的な存在として、その儘残し、別に「小樽緑丘会」を新設する事と相成りました。

私が選らばれて、その会長をお引き受けすることになりましたが、多数先輩や有能な会員の居られる当地では、誠におこがましく、またその器でないことは重々自覚しておりますが、母校や緑丘会に四十年近くもお世話になっておりながら当地を離れていたため、何等の御恩返しも出来なかったことや、また会の運営は昭和十年頃御卒業の新進気鋭の方々におまかせして、たゞ看板であればよいという先輩諸士のお言葉もありましたので、あれこれ考えた末、及ばずながら全力を挙げて務めて見ようと決心した次第であります。緑丘会員諸士の絶大なる御援助と御指導を期待して止みません。

そこで私なりに、何にを目標として会を推進して行こうかと色々考えへたのでありますが、差当り次の三つを採り上げる事に致しました。

一、緑丘会員の長所として、世間では色々といはれておりますが、その内で「人格」或は「品性」つまり独特の「風格」を高める事に重点を置きたいと思います。頭が良くて仕事の切れ味が鋭く、英語がうまくて弁説がさわやかであっても、品性の下劣な人間は困ります。人に後ゆびを指されない。高い風格のある人物になるようお互に気をつけましょう。

二、緑丘会員は小樽市の経済界をリードしたいと思います。何時如何なる会合に出席しても、その会をリードしているのは緑丘会員であるのが現実であります。当市に御厄介になっている以上、その発展のために我々が全力を尽して奉仕するのが、小樽緑丘会員の義務であると信じます。その間にお互に連繋をとりながら、勉強し研究し合いましょう。

三、母校の所在地でありながら、従来学校と緑丘会との連絡が悪く、極言すれば年一回の卒業式に顔を合わせる程度に過ぎませんでした。これではいけないので、学校の先生や学生ともっともっと親しく交って、お互に勉強したいと思います。折角立派な先輩を持ちながら、在学時代一言も話し合う機会を持たないで、社会に放り出される学生は気の毒だと思いませんか。

このところ公私とも甚だ多忙で、ゆっくり原稿を書く暇もないので、誠にお粗末で申訳ありませんが、以上簡単に就任の御挨拶を申し上げました。

小樽緑丘会員は勿論、他支部の皆様方の御叱正を得て、本会発展の為に寄与したいと念願しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（北海道石炭荷役㈱社長）

北海道石炭荷役株式会社

取締役社長　讃岐梅二（大12）

常務取締役　川合繁哉（大14）

小樽市南浜町6丁目2番地

古瀬 伊藤 浜林 母校三教官 学位授与祝賀会

昭和三十七年十月二十七日
於小樽・北海ホテル

（上）左から戸井氏，金栄氏，大野前学長，浜林助教授，古瀬教授，伊藤助教授，讃岐会長
（下）古瀬大六教授の挨拶

小樽緑丘会発足の去る十二月二十七日会場の北海ホテルにおいて引続き母校三教官の学位授与祝賀会が開催された。先刻同会場で、小樽緑丘会副会長に就任の小林啓作氏（昭一一）の司会で定刻午後三時三博士の来場を拍手を以て迎え開会する。

世話人代表で戸井正三氏（大八・北海道税理士会々長）からこれまでの経過報告「小樽緑丘会も愈々新役員の顔振れで発足今回の母校三博士の祝宴会を皮切りとして大いに母校との連繋強化を図る」との挨拶が述べられた。次いで大野前会長から祝辞と三博士の紹介があり、さらに在校会員を代表して金栄支部長（大七・大国屋社長）の祝辞があり、上京不在中の加茂学長のメッセージを小林副会長が代読された。終って讃岐新会長（大一二）より三博士に記念品の贈呈が行われ万来の拍手が起る

次いで三博士の挨拶に移り、古瀬教授、伊藤助教授、浜林助教授の順に学位授与の経過と謝礼を述べられ新谷新幹事長の進行によって祝賀の宴に入る。讃岐会長の音頭で乾杯、三教授の前途を祝福し、母校教官と緑丘会員との和気靄々たる懇親会に移った。階下モンパリのバンド、ウエイトレス諸嬢のサービスで光彩を加える中に、越崎宗一氏（大一一）美浪治郎氏（昭八）外有志のテープル、スピーチがあり、司会者のきも入りによる母校グリークラブ員によるコーラス合唱が行われ、極めて盛会裡に母校教官、学生、同窓が三身一体となって校歌合唱、万才を三唱して夕刻五時意義深き祝賀会を閉会した。

（越崎記）

三博士の横顔

古瀬大六教授

昭和十五年東京商科大学卒、東京芝浦電気株式会社を経て昭和二十五年四月小樽経済専門学校教授。後小樽商科大学講師、助教授を経て昭和三十四年二月教授、現在に至る。その間三十五年二月より三十六年五月迄アメリカへ留学。三十六年十一月一橋大学に於て商学博士の学位を授与さる。

論文名・分権的管理の数学理論

伊藤森右衛門助教授

昭和十五年小樽高商卒、昭和十七年神戸商大卒、北海道学芸大学助教授を経て昭和三十五年小樽商科大学助教授、現在に至る、三十七年三月北海道大学法経営部教授会に於て経済学博士の学位を授与さる。

論文名・経営者リーダーシップ

浜林助教授の挨拶

浜林正夫助教授

昭和二十三年東京商科大学卒、直ちに小樽経済専門学校に赴任。昭和二十六年三月小樽商科大学講師、二十九年四月助教授、現在に至る。三十七年二月北海道大学経済学部教授会において経済学博士の学位を授与さる。

論文名・イギリス市民革命

晴天のヘキレキ

小林啓作

小樽緑丘会 副会長（昭一一）

小樽緑丘会の発足に当り、図らずも副会長に就任せよとの御交渉を受けました。将に晴天のヘキレキであります先輩御歴々のなかにあまた適任者がおられることでありますので、私のような若輩者で、しかもドンキホーテのような大馬鹿者の出る幕ではないと存じ、詮衡委員代表の方々にその旨を申し上げたのでありますが、『既に讃岐先輩は会長に、また石河先生は副会長に新谷氏は幹事長と夫々就任受諾済で残ったのは君一人である。この際文句なしに承諾せよ』とのことでありました。発会式も目捷の間に迫っているとのことであり私だけが固辞して切角スムーズに進行している小樽緑丘会の誕生にブレーキをかけては発起人の御苦心に対して誠に相済まぬ事になると考えましたので菲才その器にあらずと存じましたが御引受けするの己む無きに立ち到りました。

私は自分ではある程度の良識を有しているつもりですが、どちらかと申しますと甚だ血の気の多い性格で理性よりも感情が先走りする悪い癖があることを自覚しております。その欠点を矯正しなければと存じ二十年前から『生長の家』の会員として、また祖父の代からの日蓮宗の信仰を通して修養に心がけて参りましたが『馬鹿は死ななきや治らない』と云う浪曲の文句の通りで持って生れた気性は仲々矯正されません。安保反対の真最中に安保賛成『日の丸行進実行委員長』などという役を買って出る始末で自分ながら『森の石松』みたいな大馬鹿野郎だなとあきれているのが本音であります。従って果して讃岐会長の良き女房役になれるかどうか全く自信がないのであります。しかし、御引受けした以上は努めて大役を果すことのできるよう心がけ小樽緑丘会の名誉を汚すことのないように且は又会長に御心配をかけないように自制ある決意であります。万一緑丘人としてふさわしくない言動がありと御認めの際は理由の如何を問わずバッサリと首を切り落とされても決して異議を申立てません。

これは私一個人としての憶測でありますが実は明春私が町会長をしている緑本町会が推せん母体となって私は市議に立候補することに決定しました。既に自民党の公認となっておりますので多分小林を引立てゝやろうという先輩方の御温情で晴天のヘキレキとは相成ったのではないかと存じ、もしも私の憶測が当っているとすれば誠に申し訳けないことであると心得、恐縮などという言葉では表現できずただただ感謝の念で胸が一ぱいであります。副会長などと云う器でないことは以上で御理解戴けると存じますが何んとか御期待に叶えるよう精一ぱいの努力を傾注する覚悟でございますから何卒御海容を賜り度いと存じ、つたない文章を綴り御挨拶と致します。

（全日本計理士会理事）

牛乳石鹸代理店
資生堂ホールセールチエーン
株式会社 越 本間商店
代表取締役 本間誠一（昭11）
小樽市花園町西2丁目28番地
TEL ②2030 ②9030

緑丘と博士

相沢　正美（大一一）

去る十月二十七日母校教授陣の古瀬、浜林、伊藤の三氏がそれぞれ商学博士、経済学博士の学位を取得されたので、その祝賀会が行われた事は緑丘誌上にも紹介されたので周知の事と思う。これに因んで緑丘と博士について私の知る範囲で述べて見たい。

高商時代の博士は初代校長渡辺先生の文学博士だけだったが、その後南さん（大九）が母校出身の第一号として経博となられ、次いで大泉君（大一一）が同じく経博として続いた。（現香川大学長）そして第三号が実方正雄君（昭二現大阪商大法学部長）の法学博士が生れた。それから後に西野嘉一郎君（大一五）の商学博士、白山友正君（昭七学大函館分校教授）の文学博士等が続いて今回の伊藤君（昭一五）の経博同時に長谷部亮一君（昭一九現北大）も経博となり、正に百花燎爛の態を呈するに至った。

次いで母校関係の博士を尋ねるといまは故人となった元教授の高島佐一郎先生の経博、小原亀太郎先生の理博、小瀬伊俊先生の農博、佐原貴臣、大熊信行先生の経博等がある。この内大熊先生は神奈川大学第二経済学部長として健筆を揮われつつある事は諸君の知らるる所で、さてここで話題を一転して博士となられなかった博士級の先生方を偲びたい。

その筆頭は言う迄もなく伴先生である。東大法学部のトップとして銀時計組だった先生は無論博士たる事は予約されていた。たゞたまたま母校に職を奉ぜられたため、その機会を失ったのである。当時は大学総長の推薦によって博士号を授与された時代であったから京大にそのまま在職して居られたら伴法学博士は数年ならずして実現していたであろう。

NO2は大西先生である。神戸高商、東京高商専攻部（現一橋大学）をいづれもトップで卒業、その帝国主義論、社会主義論の卒業論文を草して経済学界の鬼才と謳はれた先生が博士となられなかったのはむしろ不思議とさえ言える。ところで先生が博士になれなかったのには二つの理由が考えられる。一つは伴先生同様中央を離れていられた事、二つは先生の恩師が神戸時代は津村秀松博士で東京時代は福田徳三博士であった事である。当時の津村博士と福田博士は東西の二大学者として両々譲らぬ論敵の間柄で両者の板狭みになった先生には従ってチャンスが恵れなかったものと想像される。この事は後に先生の後輩であった飯島幡司氏や丸谷喜市氏がいづれも博士になった事でも分明であろう。

NO3は手塚先生である。先生に接した者であるならば誰しも感ずる、その学殖の深さ、研究心の旺盛さ、しかもワルラスの研究にかけては斯界の第一人者を以て目された先生が学位をとられなかったのも大西先生同様不思議の一つと言える。しかし先生の場合は伴さん、大西さんとは事情がいささか違って先生にはその気がなかったからだと私は信じている。それは先生がよく帽子（博士号）をかぶってもかぶらなくても人間の価値に変りはないと言われた事から推察される。

かくてわが緑丘学園には錚々たる天下の名教授を擁し、その学問的遺産は半世紀にして見事なる開花を表わして続々と博士を生むに至ったと考へるのは自負に過ぎるであろうか。ともあれ、この学園に学び、この学園の卒業生たる喜びに浸り得るわれわれは幸せと思う。学園よ永遠に光あれ。

（元小樽短大教授）

トーモクの段ボール

東洋木材企業株式会社

取締役社長　手取貞夫（昭17）

取締役営業部長　海崎臣一（昭17）

本社　小樽市北浜町三ノ六　電話（2）3171（代表）
東京営業部　東京都千代田区丸の内二ノ一八（内外ビル七階）　電話（281）2746（〃）
大阪紙器工場　大阪府北河内郡門真町門真八八〇　電話（952）2131（〃）

楽しい20人の集い

（S. 37.12.14）

三代校長 苫米地英俊先生 御夫妻の金婚を祝す

老生夫妻結婚以来歳月は流れて早くも満五十年を経ました。所謂金婚を祝うならわし、一女四男の五つの家族、止むない事情で欠席した二人を除いて、総勢二十人が集り、情愛の籠った記念品を老父母に贈呈したあと、恩愛の情が漲ぎる一室で心行くまま会食したので、極めて内輪なささやかな催しでしたが、これが親子の自然なあるべき姿だと感じました。

その席で様々の回想が胸に浮びました。その一つ二つを拾ってみます。夫婦の間に初めて生れた長女が、まだものも云えない幼い或る春の日、母に抱かれて、暖かい陽を浴びて散歩したとき、自分の鼻をさした指を路傍の美しい花に向け、母と無言の語らいを交わした。その頃留学帰りの大西教授が帰朝の挨拶に見えられ玄関で長女を見るなり、「やあ、こら傑作だなあ」と叫ばれた大声にど肝をぬかれて、パチクリしていたあの幼い顔、昨日の如く思われる。緑丘の卒業式の当日、礼装に余念のない父親に「いつおとうさんは卒業するの」と問われた末子に「まだなかなかだよ」と答えたら「ああ落第したのだな」と嘆声、その奇声の主が今は二人の子を持つ父親となっている。

世はこうして移り変るのだ。老いて子供の幼い頃を思い浮べるのも尽きぬ慰めになる。春夏秋冬、移り行く季節の楽しみを味わいつつ、人の世を明るく暮そうなど家路の車中で考えたのでした。

（苫米地）

札幌　中野喜一郎（大一五）

拝啓　御多忙中益々御健勝の事と念じ上げます。

唯今苫米地先生の御宅に小生個人として御祝いの言葉だけでもと存じ顔出しました。

金婚組ともなれば人生の数少い大きな御慶事と存じます。

（以下略）

大阪支部長
天野雅司様

大一五 〝東京十五日会〟苫米地先生に陶画を贈呈

昭和三十七年最後の十五日会が開催された。例月は十五日であるが十二月は土曜日に当るので一日繰り上げて十四日に開催した。今回苫米地先生をお招きする予定であったが、先生には金婚の御祝を自宅でなさるとの事で十五日会の出席を見合せられた。

小樽から御令嬢、名古屋から三男が夫々御祝いに御出でになられた由。

我々十五日会は御祝の印に陶画を御贈りした次第です。

想い出のまゝに

世が世なら打首にでもなった話

前学長　大野純一（大8）

小樽の母校には、昭和二十七年以来三年制の夜間短期大学部がある。これは勤労青年のための教育機関を是非設立して欲しいという地元市民や道民の熱意に応えて出来上ったものである。古い卒業生にはあの馴染深い正門前の工藤ミルクホールのあった附近だといえば大体場所が想像して貰えるだろう。また新しい同窓諸君には栗林会館の跡地と考えて貰えば見当がつくであろう。道と市が三千万円近くを投じて建てて呉れた二階建の瀟洒な建築である。年々百名位の青年がこの門を出てわが緑丘に一勢力を加えつつある。

扨て、昭和二十九年の秋北海道で国民体育大会が催されたときのことである。天皇、皇后両陛下は小樽市にも御立寄りになることになったのであるが、その御視察箇所の一にわが短期大学が指定されるの光栄に浴したのである。それは同年八月十九日のことである。宮内官の話によれば、両陛下が短期大学に御成りになるのはこれが初めてとのことであった。文科系の学校としては特に珍らしい施設もないので、短大の学生の研究作品や、教官の著書論文等を中心に二つの部屋に陳列し、各室の壁間には同窓越崎宗一君の秘蔵のアイヌの風俗絵を掲げて、御覧に入れることとした。

当日、教職員、学生及び教職員家族一同は分担に従って校舎の内外で御待ちした。私は玄関で御迎えし、定刻御着と同時に二階の主事室に御案内して、同学部の概況を御説明申上げた。

そして、御説明の最後に、「彼等勤労青年の向学心に十分むくいるよう私共一同努力する覚悟でございます」と結び、次ぎの部屋への御案内のゼスチュアーをしたのであった。ところが、意外にも、陛下は、「今述べたような決心で今後共大いに努力して下さい」と激励の言葉を賜ったのである。私は咄嗟に、「有り難う御座います」といってからだを前にかがめておじぎをした。後から考えて見れば、この「有り難う御座います」は誠に変な答えであったと思う。「はい、かしこまりました」か「はい、承知いたしました」位が適当な言葉でなかったかと、今でも思う。やはり少しあがったのであろう。

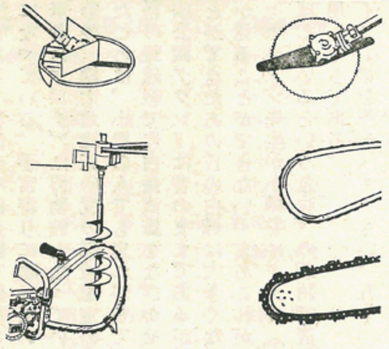
私は時間を気にし乍ら、陳列の第一室を御説明申上げた後、第二室目へと急いだのであった。小さい部屋の中程へ御先導した頃、天皇陛下は「昼間の教官が夜間にもこちらえ出て講義するのは大変ですね」と労りの言葉を下さったので、私は「理想といたしましてはこちら専任の教官を出来る丈け多く揃え度いので御座いますが、国家の財政窮乏の折柄でもありますので、夜間の教官定員が充実いたしますまでは本科の全教官がこちらへ参りまして応援いたしております」と申上げたのであった。陛下は、「ほんとうに御苦労ですね」と仰言って教官の労に対して温い気持を示めされたのであった。

こうした御話が終って、室内を数歩あるいたとき、陛下のすぐ後にしたがっておられた皇后陛下から「こちらの学校は何時

に始まって何時に終るのですか」という御質問が出たのであった。御答えは勿論皇后陛下の方に姿勢を正して申上げるのが礼だと思って、私は急に廻れ左をしたのであった。ところが、そのとたんに、私の動かした右足が何かにコツンとあたって一寸高いものの上に乗っかったのである。ハット下を見ると天皇陛下の御靴の先に私の右足の靴が乗っかっているのである。私はその瞬間何と御詫びを申上げるべきかとまどったのであった。またたく間の出来事ではあったが、二つの案が私の頭の中に閃めいた。一つは「御許し下さいませ」であり、一つは「御免下さいませ」であった。瞬間の判断ではあったが「御許し下さいませ」はあまりにかたすぎると決めて、即座に「御免下さいませ」と陛下に丈け聞える程度の小声で御詫びを申上げたのであった。陛下はかるくうなづかれたようである。そこで漸く皇后陛下の御質問に対して「多くの官庁や銀行、会社は午後五時迄が執務時間のようですからこちらは六時から始めて九時に終ることにしております」と御質問に御答えしたのであった。すると皇后さまは「それでは昼働いて十分休むひまもなく勉強ですね、仲々感心な人々ですね」と申された。私は「はい、ほんとうに感心な青年達で御座います、今頃の気候ですとまだ良いので御座いますが、冬季になりますとあの坂道の両側には一米以上も雪が積っております。吹雪の夜などは二、三米先さえ見えないことも度々御座いますが、そんな時でも彼等は熱心に通学して参ります。私共教える方でも頭の下る思をすることもあります」と申上げたところ、皇后様は「ほんとうにそうですね」と学生のために仰言って下さったのである。

今日でも私は就職先等で短大の学生が賞められるのを聞くと殊更に嬉しくなると同時に、昭和二十九年八月十九日を思い出して、世が世であったら陛下の御靴をふむとはけしからん無礼者めと打ち首にでもなったかも知れないと、冷やりとする。それにも拘らず、こうして、呑気な生活が続けられるとは誠に有り難い世の中ではある。

McCULLOCH



世界最大のチェンソー・メーカー

米国マッカラー社　日本総代理店

株式会社 新宮商行

取締役社長　坂口栄之助（昭17）

本社：小樽市稲穂町東7—11　電(2) 5111（代表）
支店：東京都中央区日本橋北海ビル　電(281) 2136（代表）

昔の小樽　今の小樽

寿原九郎（大13）

母校は既に創立以来五十年を過ぎ卒業生は八千人に達している。同じ学校に学んだということによって、卒業生相互に信頼や親愛の気持の深いのは当然であるが、卒業年度によって母校や小樽から受けた印象は異っていると思う。

私は大正十三年の卒業生であるが、その頃の卒業生で小樽を訪れる機会を持たない諸兄には一体、母校は、そして小樽はどんな風になっているかに、最も深い関心と興味を持っておられることと思う。好敵手？であった北大の居城、札幌は時代の脚光を浴びて全く変貌して、北大の名歌「アイヌの姿うすれ行く……」の情緒はどこにも見出すことができない。

小樽は幸か不幸か必ずしも殷賑を極めているとは言い難く昔の面影を多く残している。それでも私共がよくたむろして高歌放言した高橋ビヤホールは取り払われて、モダンな住友生命保険会社のビルが建ち、可憐な花ちゃんという娘が看板であった汁粉屋赤のれんは、繊維の小売屋になった。今は松竹座として映画館になっている錦座の隣りの肉屋、米久は消えてしまった。古風な河野呉服店がニュー銀座というデパートに変り、その地点から海岸まで両岸に、あの風情のある柳の植わっている妙見川は暗渠になる計画があり「ときわ」もなくなった。

このように書くと、昔の小樽はどこにあるのかと反問されるであろうが海岸沿いの堺町には石造りの落着きのある店舗がそのまま残り、色内町には日本銀行を始めとして一流銀行が軒を並べている状況には変わりはない。ただし最近S銀行、K銀行の如く閉鎖されたことは遺憾である。古代文字は金網で保存されているがその真疑が問題になっている。手宮寄りに建っている日本郵船会社の旧社屋（筆者スケッチ）は博物館となっているが、階上の広間が日露戦争後、樺太北緯五〇度の国境を定めるための会議場に使用されたことは、小樽の人でも忘れがちである。

また、対北大予科の野球戦で赤白長流旗をなびかせて、青春の血を沸かした花園公園グランドは昔のままであるが、小樽港を眼下に収めることができたあの丘の白樺は大きくなり過ぎて今では港の一部しか見ることができない。まあこれが小樽の現状であるが、昔マッキンノン先生が小樽をニギナカ（ニギヤカとイナカと相なかばしているという意味）の新語で表現されていたが、今でも通用しそうである。

この辺で母校のイメージをうかべて下さい。五十年の歳月を経て天井の高い木造の本館は相当傷んでいたが、創立五十周年記念に大修理が加えられ、ペンキの色も昔のままに新しく塗られスマートな校舎になっている。赤煉瓦造りの商品館をある先生は廃品館と称していたが、それは現在では先生方の研究室として使用されている。自慢の図書館はますます充実され、閲覧室に掲げてある歴代校長の肖像画は四枚になった。五十周年記念事業であるランゲージ・センターは既に完成され学生達に利用されている。またIBMが図書館の海側に新たに設備されようとしている。四つの寮は取り払われて第二寮の跡に鉄筋コンクリート造りのモダンな寮ができた。

凹凸のひどい玉ノ井坂は雨の日、雪の積った時など文字通り地獄坂であったが、今では両側に民家が建ち並び、道路は舗装されて自動車が軽やかに走ることができるようになった。残念なのは学校を囲んで繁茂していた落葉松が戦時中切り払われて早春新芽の美しさ、晩秋の燃えるような紅葉を見ることができないことである。

さて最後に、卒業生諸兄は日本国中至る所にそれぞれ力強く経済活動されていることであると思うが、母校の名声を一層高めるようご健闘を祈ると共に、母校の先生方も学生の教育について卒業生や地元小樽市民の要望に応えるため、立派な卒業生を社会に送り出されんことを熱望して止まない。

（全国相互銀行協会々長、北洋相互銀行社長）

追憶

富崎信夫（昭6）

学生時代から通算三十余年間住みついた小樽は第二の故郷である。何時の日か小樽を去る時が有ればその時こそ小樽は本当の故郷としての実感が湧くであろう。中学卒業迄故郷の函館に住んでいたが、高商在学中休暇で帰省する毎に見る風物、聞く話など、それがとりとめもないものであっても親しまれ懐しく思われたものである。電車の車掌で話したこともなく、ただ顔見知り程度の人でも久し振りに見るとなんとなく懐しく見えた。今夏内地出張の帰路台風のため函館に一泊したことがあった。何十年ぶりかの滞泊であった故か、忘れられない思い出の泉から少年時代の記憶がよみがえるのを覚えた。昔のままの姿、見違える程変った街並にも感慨は深かった。小樽高商に入学したことが私の一生の大半を支配して来たことを考えると、小樽は故郷以上の実感で見つめられるとしても不思議ではない。

高商を卒業して満鉄に入社する希望で第二外語に支那語を選んだのであるが亡き母の反対で渡満を断念した。

第三寮の先輩丸山堯氏から当時好意ある御連絡を頂戴して渡満の準備をしたのであるが、小樽に就職することになったのも因縁というべきであろう。それにしても母校の膝下にばかり居ては母校の有難さを忘れ勝になるのは小生だけではあるまい。あまり身近にあるものはそれが当り前のことになって馴れてしまうからであろう、いけないことである。

母校と故郷には馬齢を加える毎に誇と感謝の念は一層深まる筈であるのに。小樽も年々変っている。殊に戦後樺太との交易がなくなってからは市の発展は遅々としている。船舶会社の支店、出張所が海のない札幌に集中し、小樽は事務所程度で現場仕事をする位の規模のものしか残っておらない。小樽船主協会というのがあったが今は札幌船主協会となった。

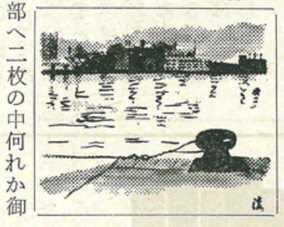
小樽は変ったが昔の小樽高商は校名こそ変ったけれど半世紀の歴史を蔵し新時代への有能人士を毎年日本国中に送り出している。新しい歴史を作るために。有難いことである。

以前はシュクズシ、今はシュクツと読む祝津の灯台は古いので記憶にある方も多いと思うが、ここに鯡御殿、市で経営する水族館があることは知らない方も多いであろう。母校への追想となれば幸であると思って祝津を描いてみた。幼稚なカットの積りで。

（板谷商船支配人）

色紙贈呈

小樽チャーチル会員富崎信夫（昭六）―表紙絵、越崎清二（昭一一）―カット―両氏の色紙を希望者に贈呈していただきたいと編集部に申入れがありましたので二月末日までに御申込ありました方に抽籤で御送り申上げます。ハガキで編集部へ二枚の中何れか御希望のむきを書いて御申込下さい。

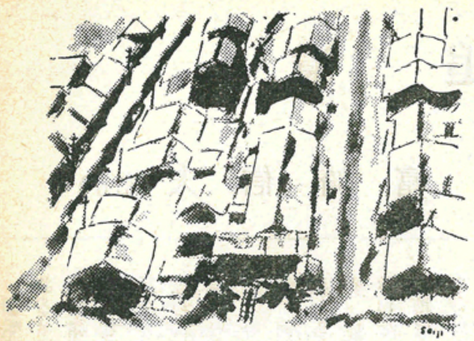


小樽緑丘会常任役員一覧表

役名	氏名	卒業	勤務先
会長	讃岐　梅二	大12	北海道石炭荷役㈱
副会長	石河　英夫	昭 7	小樽商科大学
〃	小林　啓作	〃11	小林会計事務所
幹事長	新谷篤太郎	〃15	小樽漁綱㈱
常任幹事	鈴木丙午郎	〃 3	光合金㈱
	川田　稔	〃 5	川田商店
	井林　清介	〃 7	中央ホテル
	鈴木　三七	〃 8	電気通信共済会北海道支部
	川島　道雄	〃10	中島電気商会
	越崎　清二	〃11	越崎商店
	加藤　勇	〃12	加藤建材工業
	上村　高満	〃15	
	麻田　四郎	〃16	小樽商科大学
	村山　裕	〃17	寿原食品㈱
	宮下新太郎	〃20	宮下商事㈱
	杉江雄太郎	〃24	杉江商店㈱
	森田　拓次	昭30	大同倉庫㈱
	岩田　博吉	〃30短	小樽市監査事務局
	東　完治	〃32	東畳工業㈱
会計	佐藤　鉄雄	〃15	佐藤税務会計事務所
〃	大原　一之	〃20	グラフ商会
監事	清水孫四郎	〃 9	清水産業㈱
〃	籾谷　真一	〃17	北の誉香蘭㈱

デパートと商大生

金栄酉吉（大七）



越崎清二君から、蟇目さんが九月来樽された時話があった通り、今度「緑丘」の小樽特集号を出すから、「デパートと商大生」というようなテーマで、何か書いてくれるようにと仰せ付かった。私は蟇目さんが並々ならぬ物心両面の苦労を惜しまず燃えるが如き母校愛からあの困難な出版を続けて来られた熱意に感激しているので、仰せに従って、早速筆を執って「デパートと商大生」と二つを並べてみたが、さて越崎君がこのテーマを与えられた意図が奈辺にあるかを考えてみた。まさか同君は近代流通機構の一つとしての「デパート」を商大生は如何に観察するやなどという、野暮ったいものを期待しておられるとは考えられない。そうだとすれば、もっと軟かい少しはお色気のあるものを、例えばデパート娘と商大生とをからみ合せて、そこに醸し出されるであろうところのロマンスなんかを、頭の中に画いての御注文であろう。と自分勝手に解釈してペンを走らせる次第であるが考えてみればデパート娘といったところで、別に他のBGと変った性格を持っている訳でもないので、普通ありふれた恋愛が、アルバイトに来ていた商大生との間に実を結んで、結婚にゴールインし芽出度し芽出度しで、四海波静かに納まるという程度のものが多いのである。私の所の場合、強いて探せば、数年前卒業まぎわの商大生と恋仲であった女店員とが、双方の親達から結婚に反対されたため、世を儚なんで日頃憧れていた天狗山で心中して、天国で結ぶ恋を地でいった位が、珍しいケースといえばいえる程度である。

今日此頃と違い、若い女性が勤めに出るということが寧ろ例外であり而も若い男女の交際が兎角変な目で見られた時代に於いて、誰れ憚からずおおっぴらに顔を合せ然るべく話も出来る娘さんが大勢いるところといえば、勢いデパート位のもので、その上容姿端麗を売り物の一つとしていた時代であるから、それ相当の稀少価値も生れて、それこそ商大生ならずとも、好奇心のある男性を牽きつけていた時代もあったのであるが、戦後女性の職場がベラ棒に増えて、ミメ美わしきBGが街に溢れそれがいとも簡単に交際出来る仕組みになった今日、デパート娘の稀少価値が次第になくなって来た事は、需要供給の法則などを持ち出すまでもなく、デパート娘に対する商大生の関心が次第に薄れて来たことは当然であろう。まして人手不足の昨今、容姿端麗の謳い文句もだんだん怪しくなって来ては愈々処置なしである。その上不運なことに近頃のように消費者は王様なり等と教え込まれて、出勤してから帰るまでペコペコ頭の下げ通しの姿は、サービス第一のデパートに勤めた因果とは申せ、何となく卑屈感と教養の低さとを錯覚させる結果となり、一応はインテリを以て任ずる商大生に対し、益々魅力を失った形である。

こう申上げると彼女達に大変気の毒な御時勢のように聞えるが、彼女達に言わせると、又成る程と首肯ける言い分がある。商大生が彼女達に魅力を失った以上に、彼女達は商大生に魅力を感じていないという。曰く商大生なんて、偉そうに思っているかもしれないが、考えること、なすことの殆んどが、街の若い衆と何んにも変らないじゃないか。土台、街を歩くのに制服制帽も身につけないなんて、商大生の身分を蔽し、自分の言行に責任を持ちたがらない証拠じゃないか。その上大学生なんて星の数程もあるんですよと仲々手きびしい。煎じ詰めれば彼女達がもし商大生との間にロマンスが生れてもそれは商大生としてではなく単なる一人の男性としてであるという訳であろう。これを裏返して言えば、商大生の肩書だけでは最早や彼女達を射止められないということである。

（大国屋デパート社長）

小樽 チェーン豊楽荘

本店	割烹	豊楽荘	2-5343	小樽市花園公園入口
支店	レストラン	ニュー豊楽	2-3872	小樽市商工会館地階
支店	ホテル	ホテル豊楽	2-0628	小樽市永井町1丁目1

小樽夜景

山本信爾（昭八）

こんな題名がこの私にあてがわれた。夜景と言うのはビルの屋上から眺めた夜の景観とでも解すべきか、否こんなやぼったい解釈なら御免蒙りたいと申す多くの同志のために敢て私は重い足を引ずり乍ら夜の街へとぶらつくことにした。在学中アルバム委員をやった私は三十年前の小樽の夜景をふと憶い出したものだ。

札幌に通う鈴木三七君や仙台で活躍している菅井長平君等もその一人、最もよく小樽を印象づけたものの一つに夜の妙見川紅灯街？ がある。柳の葉が川の流れに垂れて夕涼みに出ている女性といった風情は、妙に私共の瞳にこびりついていて、その一こまはたしかアルバムの一端をかざっている筈だ。世の移り変りは戦争を境にして凡てこの小樽の夜の地図をば塗り換えてしまった。あの辺りは柳の木どころか雑草すら生えぬメタンガスの臭いで私共を敬遠している。二三年後には川は暗渠となって普通の道路となり、カーラッシュのはけ場所として駐車場となるに違いない。外見的の夜の小樽の香りはまことに日本中何処ででも臭ぐことの出来る特徴のないものとなって了った。

私はしかし面白い臭いをしかもこれは小樽のむかしからの体臭がレンメンとして伝っていることに気がついた。それは喰べ物の味と女性の香りであることだ。女性の香りと申しても誤解のなきよう――きれいな肌をもった潤いのある瞳、物腰――のれんは変ってプラスチック・ガラスのドァーを押して席をとり近海でとれた魚を生乾きにした幾種類かの肴を炭火であぶり乍ら熱かんの酒をもつきりコップでたしなむあたり小樽生れの女性が必ず一人や二人はいるに違いない。この小さな場が実は驚く許り軒を並べて増えた。この小樽のよきムードをかもし出す女性達は近郊塩谷蘭島、さては余市、古平、美国の産である。小樽の夜景に結びつくものに昔かわらぬキャバレーがある。モンパリ等は今もって栄えその外にはメルボン、現代、ルムバ等々夫々の特徴を生かして繁昌しているのだが、この小樽が戦後余り振わぬというのに之等の夜の世界は反比例のようだ。余りパッとしない設備や音楽だが、何故か人々が寄るところをみるとたしかに女の香りにあるのかも知れない。

札幌や旭川が戦後すごく伸びて夜景も亦素晴らしい。だがこの夜景はビルの上から見た景観のようにしか見えない。味と香りに物足りなさを覚えるのは私一人であろうか。そんなところにも小樽の女性が進出？ していて何時にも変らぬムードをかもし出して呉れるのだ。世は移り三味線からドラムやトラムペットに変って、ステレオによるダンス・ホールが出来た。Nと称するこの場は又一見何の味もないように見えるが、よき小樽の女性の香りがBGからマダム族に至るまでかぎとることが出来る。ここの漬けものも仲々旨い評判だがこの製造主はここの雇われ婆さんで、おそらく小樽生れの人に違いない。小樽の夜景はこんなところに迄臭いが残っているらしい。読者諸君余暇を設けてこの旧き土地を訪ねたまえ。朝里のいで湯に浸ってこの夜景のかもし出すムードに酔いたまえ。緑丘の門を出た当時の憶い出が何時とはなしに諸君の脳裡をかすめるであろう。この味、この香りは永久に消えない。（小樽倉庫社長）

クラブバイカウント・大小御宴会ホール
ゴールデンパーラー・割烹すきやばし
ホフエーモンパリ ② 6 7 9 8

北海ホテル

小樽市稲穂町東五丁目 電話代表 ② 4 1 2 1

社長 茶谷豊彦

絶佳望眺別館	銀鱗荘	② 0 5 3 3
雅典遼幽別館	和光荘	② 2 5 2 3

（大13）

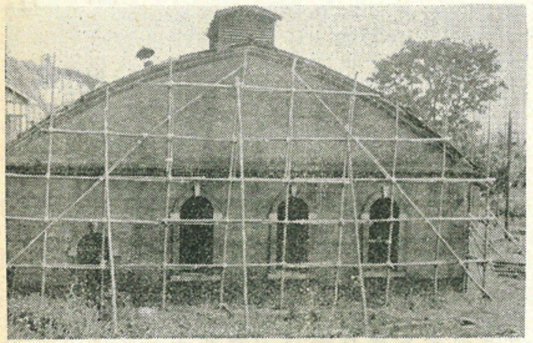
小樽に見る 明治の洋風建築

越崎宗一（大一一）

昨年母校五十周年記念に何十年振りかで小樽を訪れた同窓生が異口同音に「小樽は変っていないなあ、懐しいなあ」と叫んだ。一体これは小樽のために喜んでいいのか、悲しんでいいのか。古いものが残っているのは有難いことだが然し半面生々流転の激しい現代にとり残された感じは隠し覆うせない。嘗て緑丘校舎に学んだ同窓生が再び訪れて全市至る処に当時の（明治の、大正の、昭和初期の）臭いのしみついている建物や屋並などを目のあたり見たら懐しいに相違ない。

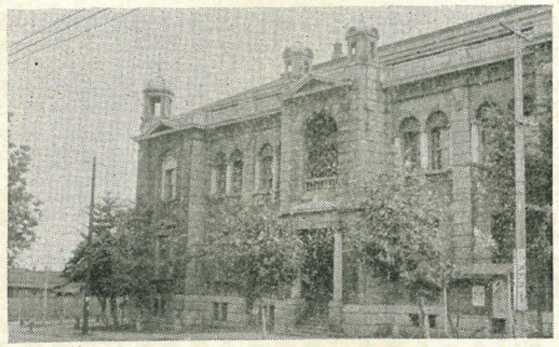
懐旧の小樽の建物を若干拾う。

昔、手宮に高架桟橋という石炭を汽船に積込む大きい木橋があった。その袂に近く明治十三年に日本では第三番目の札樽間鉄道がしかれた頃、米人技師によって設計建設された煉瓦建扇型機関庫が残っている。煉瓦も輸入もので最近国鉄記念館に指定せられ、近く補修せられて機関車「静号」や北海道で日本人の手で始めて組立てられた国産機関車「大勝号」やマクレー式除雪車などが陳列され一般に展観される。（A）



同じく手宮の石造建郵船会社支店

は、同社が日露戦役後や欧州第一次大戦に世界を活歩した偉風を偲ばせ日露役直後樺太国境劃定会議が行われた史蹟でもあるが、昭和三十一年小樽市博物館になった。設計は佐立七次郎工学博士と英人顧問技師とにより明治三十八年起工、翌年九月に竣工した。様式はゴシック建築で中欧都市にみる建物の気品と古格とを保ち、屋根はマンサード式天然スレート鱗葺小樽産砂眼石の組積式二階建、本館総坪数二百九十二坪。小樽に於ける貴重なる明治文化遺構で現在では建物自体が博物館的存在と云われている（B）



旧郵船と並び称せられるのが、オールド高商ボーイにも思い出の第一火防線通りの日本銀行支店の建物。

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

日邦工業株式会社

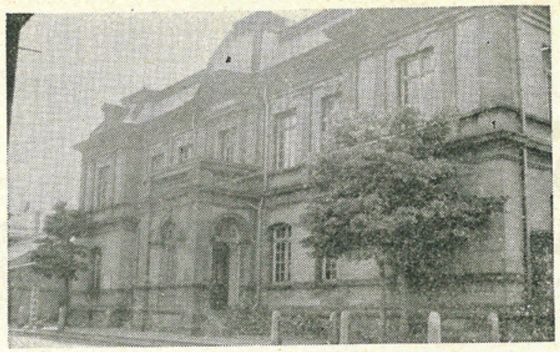
取締役社長　井藁政市

相談役監査役　宮地邦介（大11）

大阪市西区南堀江通1丁目2番地　電話大阪(531)2290 2495 5616 2794番

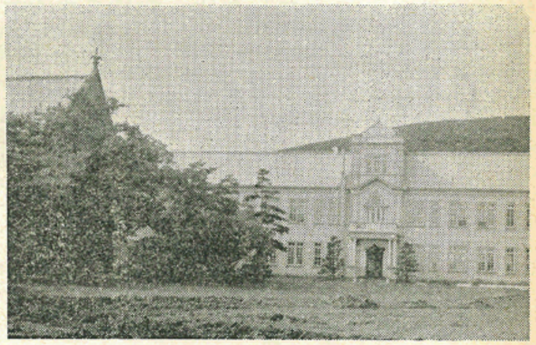
工場　大阪市大正区南御加島町二丁目二七二番地

出張所　横浜市鶴見区東寺町七二五番地　電話 鶴見(54) 2303番



緑ケ丘に聳え立つ母校木造建校舎

緑ケ丘に聳え立つ母校木造建校舎は五十数年を経過した今日と雖も寸分の狂いも見せぬ堂々たるホワイトブルーの美しい建築である。緑ケ丘五十年史によれば「玄関を入ってすぐラセン状の階段があり二階に上ると大教室――開校当時は講堂――があるという造り方は旧一高にもあったもので、そういうような点では長崎高商だけでなく、明治時代の高校専門学校の校舎には共通したスタイルがあったようである」如く母校々舎は今や小樽否北海道の明治文化財として貴重な存在になりつつある。正門玄関上の三階屋上には商業の神マーキュリーが空高く突立ち母校を守護しているかのようである。（D）



母校々舎は明治四十三年二月竣工で当時札幌農大内に文部省建築課出張所があり、文部技師新山平四郎氏同技手大井代次郎氏等が工事監督したようで、請負工事は札幌伊藤組（先代亀太郎氏）だったらしい。筆者が伊藤組へ行き確めたら屋体落成の写真が出て来たが、本館のは見付からなかった。この写真は近く母校へ寄附したいと思っている。

設計は工学博士辰野金吾氏（仏文学者辰野隆博士の父）により明治四十二年起工、同四十五年竣工、総工費四十万円、当時東京以北随一の豪華を誇った。主要材料は備中北木島産花崗岩、美濃赤坂産大理石、本道大沼硬石、登別及札幌軟石等、屋上に突出た大小ドーム型塔屋は何とも云えぬエキゾチックでドンヨリと曇った空を背景にして道行く人に倫敦ムードを思わせる。（C）

頌春

外遊四ケ月　山荘吟

箱尾山静かに膚の色かへて
脱穀機とよもす日ぐるる空に
稲村山の頂のへに秋陽照り
日だまりの中を我れと天道虫
移されし木々この山に根をおこし
寒さに耐へて時待つらしも

大平善梧（大一五）

春蘭の根もあり巌のこばれ苔
草に寝て浮世を外にまどろめば
広野を渡る武蔵野の風

岩田留吉（昭四）

吉岡三郎（大一二）
（東京都北多摩郡大和町高木三〇〇吉岡農園）

【転居のつづき】

寺田弥一郎（大一〇）
京都市東山区粟田大井手町九五

石川清（昭一六後）
小樽市入舟町九ノ一七

柏谷宏男（昭三六）
大阪府豊中市一二〇〇番地
日本住宅公団旭ケ丘団地二八号館五〇五

転任、転宅はすぐ編集部へ連絡下さい。

御栄転の情報は日本経済新聞、産経新聞、で承知しますが住所等変更ある場合は、成る可く早く御知せ下さい。（同期の方が親切に御連絡下さいます事もあります）

耐火断熱煉瓦　まるこしコンロ
ＪＩＳ指定工場
丸越工業株式会社
石川県七尾市和倉町

芝浦精糖・明治製糖
日本製粉・日本麦酒
特約店
株式会社越崎商店
小樽市港町本通り

社長　越崎宗一（大11）

退職の想い出

山　村　良　三

四十年に余る職場を退いてから半年以上にもなるが、どうもまだ浪人生活になじめない。朝夕上り降りしたあの坂路、校門、校庭幾つかの建物といまだに身の内のようなゝつかしさを覚える。誠に良き職場であった。初代渡辺校長以来五代の校長、学長始め多くの教授方や同僚達の温情も日をふるにつれて一層身にしみる思いです。終始元気な学生諸君相手の仕事だっただけに楽しみが一層大きかった。時には自分も途方に暮れるような問題にも幾度か出会ったが、いまではそうした事が一段と深い思い出となって私を若返らせてくれる。

私が小樽高商に奉職したのは大正八年三月で始めて上る地獄坂はまだ雪も深く人家も疎らな荒れ地でした。いま坂の両側の見事な並木はまだ小さくて積雪の上にほんの少し梢を見せてるだけで校門の道路向いに小さな文房具屋が一軒あるきり始めての私には人里遠く離れた所という感じでした。当時の校長は初代渡辺龍聖先生、私の仕事は教務部で、こゝで主幹武田英一先生、加藤清忠主任の元で色々御指導を頂きました。御二方共既に故人となられたが終生忘れ得ぬ恩人です。当時の小樽はまだ人口も少なく防寒設備もなかった為か寒さも厳しく雪の量も随分多かったように思う。

ある年の元旦四方拝の式に列すべく紋服に威儀を正し学校に向ったが相憎その日は猛烈な吹雪で、まるで急流のように真正面から吹きつける雪に逆らいながら、ようやくアカシヤまで辿りついたが、それから先は何としても進まず当時会計課に居た鷲巣さんも行き悩んでおり、スミルニッキ先生が殆ど雪にうづもれ立竦んでるのを見付け二人で先生をかゝえ命からがら家に帰りついた事もあった。四日の御用始めに行って見ると元旦には誰も出校し得なかったそうです。

大西先生がチブスで長橋の避病院でなくなられたのは悲しい思い出の一つとなっている。私共が知らせを受けかけつける途中あの坂の唐松が雪の上に月明で影を落している誠に寂しい路でした。

スキーで思い出すのは緑ケ丘のジャンプ台で讃岐梅二さんが全国大会で一位になった事です。この頃は二十米も飛べない台だったが、ころばずに飛ぶ考は殆どなく讃岐さんは朝家を出る時水盃をして来たという噂まで出て大変な評判でした。

昔は毎年公園で運動会をやり周囲に売店を設け市民の来場も多く盛んなものだった。対北大戦はいまでも続いてるが、当時は市中をねり歩いた後は公園通りにあった高橋ビヤホールに寄って学生と共に祝盃をあげた思い出は楽しい。当時は学生でも大ぴらに酒が呑めたので大きな行事にはよく校庭に四斗樽をならべ鏡をぬいて共に祝い合ったものだ。事務の連中には月並会というのがあり、毎月肉や鍋をかついで山や海で飲みかつ食い歌ったものだ。初め武田英一先生後から中村和之雄先生が加わって下さった。この会を思う時菅大尉始め鷲巣さんこの春亡くなった高橋庶務課長等々懐しい顔が次々に浮んで来る。

大学になってから私共の心をいためた事の一つに第二寮全焼がある。丁度土曜日の四時頃だったので外出したり運動して居た者が多く、持物は殆ど焼失中には、ほんとうにフンドシ一つになった者もあったが、先輩その他の方々の厚い御配慮と学生同志の誠にうるわしい友情により立直る事が出来た。いまは鉄筋三階の総合寮が出来昔の学生の想像も出来ぬと思わるゝ立派な寮で楽しく暮しているのを見る事が出来誠にうれしい。

私の在職四十三年の思い出をたぐると限りなく楽しくなつかしい世界に導かれる。私は小樽に居る事にし洗心橋附近に居を定めて誠によかったと思っている。

昔なじみの人々にも会う機会が多く学校の発展をまのあたり見られる幸福を感謝している昨今の私です。

(元厚生課長・小樽市入舟町九丁目八五)

昭和一一年卒の諸君へ

我々卒業二十五周年を迎えた折、越崎清二君編纂にかゝる家庭の記録アルバムを作製しました。

あなたの御家族の写真を追加して御保存下さい。

残部数冊ございますので希望者は千円同封の上御申込下さい。

品切れの節は悪しからず御諒承の程を　(墓目宛)

ずいひつ

小樽便り

新谷　篤太郎

(昭一五)

極く最近迄〝緑丘〟と言う立派な機関紙のあることを知らなかった。大変申訳けないと思う。この〝緑丘〟に当地の越崎清二氏(昭一一)から是非投稿せよとの話があったけど生来書くことが苦手なので同期の上村高満氏に確かに投稿権を無償で譲った積りでいた処、一昨日当地緑丘会の役員会の席上で重ねて申渡されたので、先輩後輩の関係上拒否権がないと諦めて重いペンを執った次第です。

〝緑丘〟の読者の中には学校を卒業されてから一度も小樽に来られない方、或いは戦後の小樽を全く知らない方も相当あるでしょう。小樽の近況の一部を書いてみたいと思う。戦前の小樽であるならば本校の卒業生であればきっと多数の方々が訪ねていたに違いない。昔の小樽は全国有数の商業都市であり貿易港であったから。今から考えると其頃の小樽は非常に恵まれていたと思う。それは本道経済の有力な玄関口であり、樺太の経済を賄っており対露貿易、満州朝鮮支那及び欧州との貿易などで、小樽の果した役割は目覚しいものがあった。然し戦後事情は一変した。これは日本海に面した都市に共通のことである。その上工業都市でない万事が仲継的な商業と貿易の都市であっただけに影響は大きかったのである。

では、最近の小樽はどうであろうか。今申上げたような事情から戦後産業振興のための極め手がない儘に推移して来たが、この三、四年来小樽の人の考え方にも頓に活発となり漸くピントが合って来た感じである。例えば小樽の産業振興のための基本構想というものを母校の加茂学長を中心に作られたが問題の核心に触れて来たと思う。小樽の特質は商業であり港湾である—最近の統計では工業の生産所得も相当な数字を示している—それ故狭い意味での小樽丈けを考えていては駄目で、先づ札幌を中心にこれと提携し更に江別市手稲石狩の三市二町を含めた経済広域圏を開発造成し、其処に産業が興ることによってのみ小樽も発展するのだという考えである。それで札幌工業地帯の造成を前記三市二町が合同して会議を持ち、総合計画を策定し且つ推進している。最近全国的に喧しくなって来た新産業都市の指定をうけようと札幌と共同戦線を張って両市、商工会議所が全力を挙げている。即ちこれらよって札樽間は工業地帯を造成する。その為余市川と豊平川を電力と工業用水に有利に利用出来るようにする。又、戦後最初に出来た札樽国道も今では狭くなり美しい観光道路としては今でも内外の人々に高く評価されているが産業道路としては屈曲が多くて時間が掛る。トンネルがあって嵩高物の運搬に支障がある等の理由で、海岸線に沿って第二国道を作らねばならないと叫んでいる。そうなれば札幌まで僅か三〇分で行ける。この他港の近代化整備は勿論銭函に副港を作る。熊碓の海岸を埋め立てて用地を作るなど色々対策を樹て実施の段階に入ろうとしている現状である。

札幌市は今や人口六〇万の大都市になった。然し全国で人口五〇万人以上の都市で港を持っていない都市は京都と札幌だけであるという。その意味で一番近い小樽の港は札幌にとって利用価値がある筈だ。従って札幌の緊密化は必然であろう。我々としても札幌と如何に有機的に結合するかが問題であろう。新産業都市の建設の指定或いは道の第二期開発計画の決定など漸く機会が到来した。今にして大計を立て強力に実施に運ばねばチャンスは再び手許から離れて終うであろう。小樽の人々は今そんな考えで頭が一杯だ。当地商工会議所の議員には副会頭の坂口栄之助氏(昭一七年)を始め一五名の先輩後輩がいる。緑丘人の責任は重大であると思っている。(小樽漁網㈱社長・小樽緑丘会幹事長)

デパート企画宣伝ライバルの巻

高村　光東

(昭三一)

一九六二年もあと一ケ月足らずとなり、デパートの宣伝戦もクリスマス一本に最後の追込みがかけられている。

小樽の三デパートは同一町内に軒を連ねね、人員の数こそ差はあるが寸分とは違わない売場面積を持ってまことにすさまじい販売合戦を見せ

ている。

その競争相手のうちの一軒、私共同様、戦前派の老舗、大国屋デパートには大野前学長の推せんで入った緑丘出身の南次郎君が数年前から企画宣伝部にガンバッている。

彼、南君は絵画・音楽をたしなみ広告デザイナーとしても相当な腕を持っており、大国屋デパートの企画宣伝部門を新しい形で独立させるのに大いに力があったことと推察される。

彼の描く新聞広告・折込広告の若い女性のイラストはイメージ創りに役立ち、独特のアイデアによる店内装飾は目を見はらせ、広告費の重点主義は見事に成功して、三デパートの争をよりダイナミックにしている

そんな彼にシゲキされて、小生も何とか仕事に熱中でき、スポーツですりへらした頭脳の足りない所は、岡本教授におうかがいしたり、専門家に根掘り葉掘りに指導ねがい、仕事らしい企画宣伝の仕事を覚えたのは、一年たった今年の春のこと、それからも、無我夢中、行き過ぎたり間が抜けたり、南君にひやかされてようよう企画と宣伝それに販売の一本化に努めたつもりだった。それに販売自体よりもはるかに好きな仕事として、スポーツの次くらいに熱中していた学科だったので、割合幸運も付いてまわり、今のところ、大きなボロを見せずに済んだようだ。

不景気といわれた本年度のデパート成績でも、小樽三店の売上高上昇率は、道内はもちろん全国でもマレなくらいの高い数字を示し、競争の威力をマザマザと見せつけている。

この競争に耐えられたことにホッとすると同時に、仕事をはなれて共に酒を飲み、ダベり合う、良き？ライバルのお蔭と自画自賛ならぬ両画両賛しているけしからぬ間柄をご紹介する次第……。

「モシモシ、企画宣伝部の南さん？どうだい、売出し企画も大体終ったろうから、クリスマスをかねて悪口雑言交換の忘年会をやらない？　計画はゼンプ君まかせでネ……」

（丸井デパート勤務）

想い出

美浪治郎

（昭八）

皆さん、おめでとうございます。時折「貴支部便り」を頂戴しており更にたまたま二十三期の越崎清二君（宗一君の舎弟）よりのお話に便乗致し、厚かましくも愚言を記させて頂きます。

大阪と言えば、昭和七年の夏期休暇を利用して、木曽先生の御引率の下に、道頓堀其他で随分と享を受け又新宮市（三輪崎）に当社で昭和十三年クラフトパルプ工場を設置した（現巴川製紙工場になっている）関係と、三十年前より大正区に当社の特約店があるため、時々御地に立寄り懐しさを覚えておりますが、何と言うても同期で同寮（文行寮）であった左記二方に対しては、筆舌では表現出来難い想い出を持っております。

三菱商事（繊維第三部長）室秀夫君
三井船舶（支店長）永井静男君

さて過日同期生に会ったら、新春三月で卒業後三十年になるので札幌で同期会を催す計画がある由、是非ご両人の出席方を期待しております。小生等卒業時は不況の最中で、「大学は出たけれど」とかの歌謡曲もあった次第ですが、何とか大過なく口過ぎをして参り感無量です。禅寺の和尚さんが「戦々兢々として人、橋を渡る時、何ぞはからん、橋は朽ちれど、水動かず」とか（水は静、物は動らしい）何れは小生もその内に幽冥界にて伴校長さんとご一緒になることでしょうが、日々感謝の念を続け、精神年令を出来得る限り左記を思って若くすべく努力中です。

一、自然の恵み
(イ) 外遊の場合と違い当地は特に水が良質なので征露丸の厄介にならない。
(ロ) 「ラスベガス」の所のような濁ったものでなく、素晴しく、おいしい新鮮な空気の一杯なる小樽。
(ハ) 英国とは比較にならぬ好天気続きの多い小樽（冬は短時間でスキーを楽しめる母校地）

一、学校の歴史
在校中は良い校長さん（伴、苫米地両校長）と優秀なる教授連に恵まれ母校歴史による良き先輩と後輩を頂いている。

一、職場の楽しみ
まさか苫さんより習った「コレポン」とか、手塚さん達の経済学が直接、間接に、こんなに役立つものとは予想出来得ぬ適所に職を得、最早や満二十九年間を同じ職場で楽しみに過ごし得た。

一、結婚のみやげ
男子四名（現在大学四年と三年、高校三年と一年）

×　×

貴重なる紙面をお借りして申訳けありませんが母校にお願いします。

全国の学校で、一番優秀なる「IBM」計算学を待望裡に実現する模様ですが、出来得れば一部学生さんの「テーマ」として左記挿入出来ましたら幸甚と存じます。

「母校図書館に於ける在校生の年度別の利用度につき」

特に最近四ケ年間の在校生の利用時間とその読書―種類―別の計数並びに戦前不況時に於ける在校生との夫々の比較即ち利用傾向度合い。

追而、貴副支部長さんは当社専務の弟さんであるため、敢えて甘えて投稿させて頂きました。多々愚言に対しご免を乞います。

（新宮商行常務取締役）

呉越同舟・南クンの巻

南次郎

（短大昭三〇）

「アッ彼が高村です」

売場の人ごみの中に、頭だけとび出している男がやって来た。六尺近ろロングサイズ氏がライバル高村光東主任であった。

「変な色にしたな、季節感がないじゃないか」

「おい、あまりぶつけて来るなよお互い相殺現象になるじゃないか」

書くに忍びない言葉とまじって、こんな会話がしばしば交わされるようになったのは、それ以来のことである。

彼、高村氏は㊥今井で、私、南クンは大国屋で、現在同じ企画宣伝の仕事を担当している。

「天下の峻箱根山で、若松屋対玉屋の一軒の旅館が先祖代々犬猿の対抗をしているなかに、若い世代の男女がさわやかな恋の波紋をなげかける…」これは映画「箱根山」のストーリーだが、ライバルの対抗は世界中ザラにある話しだ。

先輩諸氏が若さとバンカラを詰襟に包んでおられた頃、小樽美人を探しにいらしたであろう㊥今井と大国屋の二百貨店は、現在も抜きつ抜かれつドングリの背くらべを競っている。

ただ、米ソでさえ平和共存をとなえる二〇・六世紀だ。店は店同志なりに、我々は我々なりに、さわやかな共存の波紋をなげかけるまでに至らないが、平和的（？）競争にはげみ、又、コーヒーや酒も楽しんでいる。

そして、我々にとって、進歩のためにライバルは必至な存在。悠々自適と孤高の身でいられる社会ではないのだから…。

呉越同舟というにはスケールの小さな我々だが、先輩諸氏が小樽にたちよられた時、母校のトイレの落書きと共に懐しい、片想いの相手がかって働いていたであろう百貨店に、カンロクのでた体軀をお運びいただけるよう、それぞれ守りつづけている。少しでも昔より良くなったと言われるように、懸命になって…。

「ヤーやられたな。うまく抱きあわされたな」

「ラジオのCMならまだしも、緑丘のための綴り方にはヨワイから」

などと、あなたの青春の故郷、小樽のかたすみで、今日も二人、インスタントコーヒーを飲みあっている。

（大国屋デパート勤務）

講演旅行のこと

森田拓次

（昭三〇）

文章を書くことがこれ程面倒なものだったとは、遠く小学校の綴方の時間以来の一大発見であった。書くことから見れば、〝話す〟〝喋る〟ことは比較的楽なことの様である。私は学生時代講演部にいたのだが、話をする時は自分の感情が自然に音声の強弱や抑揚の変化となって表現されるし、聞く人の受取り方が、云い変えると感銘度が直接自分に跳返ってきてくれるからである。勿論講演会などで話をするためには原稿は書くけれど、それは飽迄も話をすることが前提で、その原稿を読んでも独立した文章とは決して云える様なものではないのだから、さてさて多勢の人の前に出る私の文章はこれが初めてのものと云って良いのであろう。

今講演部のことに触れたが、私の学生時代の思い出は講演部に関連することが非常に多いし、特に私の入学した昭和二十六年から復活した講演旅行は一番印象に残る行事であった。これは道内各地で講演会を開催し、皆んなそれぞれに、平和論やら景気変動論やらと研究発表会の様な講演会を行なうと云うのである。今考えると本当に冷汗が出る様な内容であるけれど、その頃の我々は勿論大真面目で、集まって頂いた先輩、先輩に集めて頂いた聴象の方々の前で大熱弁をふるったのであったが、それでもまあまあ学校の名誉を傷つける程、先輩の皆さんに恥ずかしい思いをさせる程の不出来ではなかったろうと自惚れている。この講演旅行で忘れてならないのは現在釜石で活躍しておられる関口先輩のことである。講演旅行復活の企画を立て、一人で各地を廻って会場、日取、宿舎の手配をし、復活第一回の講演旅行を完全に終了させるという全く精力的な活動をされたものであった。私が四年生の時初めて講演部の責任者として講演旅行に出てつくづく当時の苦労が身にしみたものであった。

私にとって学生時代最後のこの旅行は苦労をしただけに一番印象に強く残っている。その中で特に忘れられないのは、一つは網走郊外天都山からの雄大な眺望である。前面にはもう冬の近いのを思わせる様な鉛色のオホーツク海が果しなく拡がっている。冷たい暗い海と細い砂丘を一つ隔てた能取湖の水の色、並んでいる網走湖の水の色はどうしてあんな美しいコバルトなのだろう。網走刑務所の厳めしい壁も珍らしい形の望楼と、周囲にある農園の鮮やかな緑と調和して玩具の兵隊のいるお城の様である。右を振り向くと知床の山山が遙かに連らなり、更に目を転ずれば遠く雄阿寒、雌阿寒が望まれる。私はそれ程多くの名勝奇勝を知ってはいないが、あれ以来まだ天都山の眺め以上に素晴らしい景色を見てはいない。もう一つは台風十五号の洞爺丸事件である。旭川での講演会が終って宿へ帰って間もなく暴風雨で停電、心細い旅先での一夜を明かして翌朝旭川駅であの惨事を知ったが、小樽迄の沿線の防風雪林や電柱の被害の酷しさ―潰れたり傾むいたり屋根を飛ばされた駅を通過しながら今更の様に、自然の力の恐ろしさを教えられたのであった。

さて私にこんな色々な思い出を作ってくれた講演旅行は、実は、全部各地緑丘会の先輩の御世話で成立っていたのである。社会へ出て見て良くあれ程甘えられたものだと呆きれると同時に、良くあれ程面倒を見て下さったと感謝の念で一杯である。

或る先輩が「先輩が後輩の面倒を見るのは当り前だ。その代り面倒を見てもらった分だけ後輩の面倒を見る義務がある」と云われたことがある。

今考えて、私は非常に大きな債務を背負っている訳である。卒業して八年後の今、私は自分の背負っている債務を返済すべき後輩諸君をすでに千名以上もっていることになる。然し未だに債務は着実に殖えつつある始末。

先輩諸兄に対して、又後輩債権者諸君に対して深くお詫び申上げる次第である。

（大同倉庫勤務）

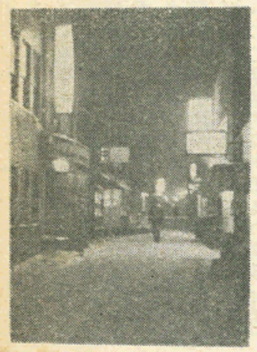
小樽・飲みある記・食べある記

S.K.生

昨年九月蔓目編集長来樽の折『くれ竹』の歓迎会に同席したことが発端となって遂に『小樽特集号』の世話人を仰せつかるという飛んでもない羽目に陥ってしまった。何も好きこのんで引き受けた訳では毛頭ないのだが、地元にある同期のよしみといったような気持があったことは否めない。しかし愈々原稿依頼という現実面に当って、これは大変な仕事を負はされたものだと直感した。だが時既に遅しである。十一月末を期限として夫々原稿を依頼の処、師走を目前にして多忙のなかから学長、大野前学長、金栄支部長、讃岐会長を始めとして先輩、後輩、同窓各位から予想を上廻る積極的協力を賜わって特集号発刊の運びとなったことは限りない喜びであると共に衷心より感謝に堪えない。

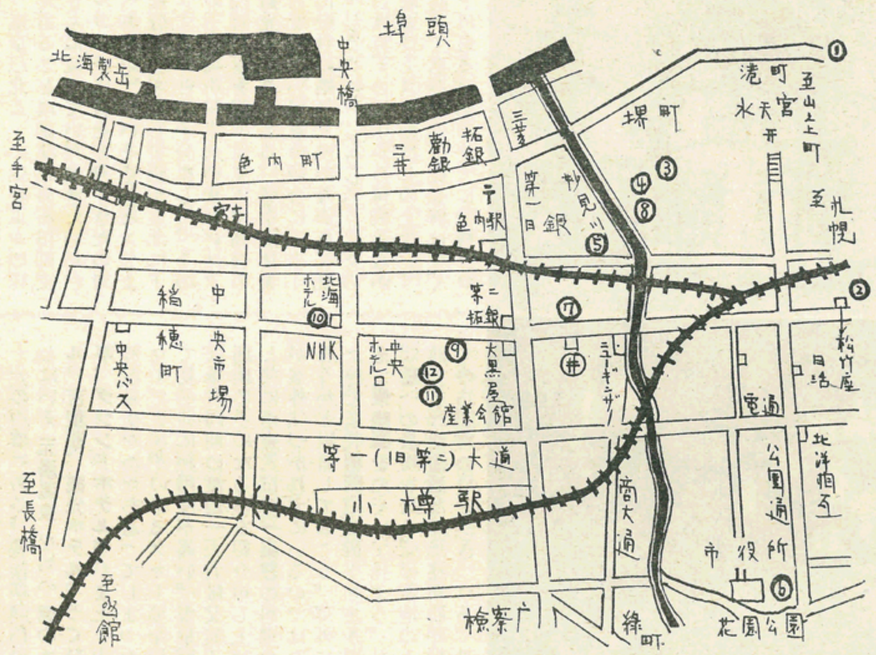
処が大方原稿が集まる段階に入って一つの難題に直面した。それは『小樽飲みある記、食べある記』を書けという編集長の至上命令である。山本信爾社長の手を煩して『小樽夜景』の総論は頂戴したものゝ各論の執筆者が見当らない。学生時代編集部を牛耳った同期の本間誠一君も社長が本業とあって儲からない執筆稼業には頓と関心が薄いようである。これだけの原稿が集った手前、『飲みある記』割愛という訳にも行かなそうである。まゝよ食料品を取扱う因果な商売の手前もあり柄ではないが夜の小樽を徘徊することにしよう。

その昔小樽全盛当時伴先生あたりが宴会の席上麗人の扇子などに『珊瑚百尺珠千斛、雉換羅浮未嫁身』などゝ事得意の漢詩を書かれたと伝え聞く料亭の数多くは時代と共に影をひそめてしまった。道内でも最古を誇る山の上町の**海陽亭**は札幌にも支店を設けて歴史的存在を高めているものゝ一つである。ロビーには日露戦争直後樺太国境制定当時の大宴会の記念写真が今猶掲げられてある。南小樽ロータリー・クラブは此処を会場に定めている。女将は小樽、若女将は札幌だが、横綱大鵬が初孫を抱いた昨年の週刊朝日所載のニュース写真は御覧の諸賢が多い事であろう。嬉志野、光亨、松島屋、雅叙園、福井屋と割烹の数々が失なわれてしまったことは一沫のさびしさがないではないが、妙見河畔には、**新松島**、**お幸茶屋**が、東雲町界隈では**千代本**と**くれ竹**、稀少価値を存続している。花園町の**たつみ**等が川を挟んで対峙していた北斗見番と昭和見番分店も川の面に垂れ下っていたしだれ柳共々いまは全く姿を消して紅燈街妙見川も今年中には暗渠に変ることであろう。戦後ニューフエイスとして現われたもので、花園公園入口の**豊楽荘**がある。素人上りの女将は仲々の女傑で南樽、商工会館地階には**ニュー豊楽**食堂を兼営更に旧臘永井町に**ホテル豊楽**を開業、体格そのまゝのスタミナを存して斜陽小樽は何処吹く風といった塩梅である。夏季豊楽荘庭園を開放してのビヤ・**ガーデン**も成吉思汗料理の安直な値段と共に好評を博している所以であろう。戦後札幌の発展に伴って花柳界の殷賑も札樽逆転の観がないではないが、往復のハイヤー代を差引いても小樽で遊ぶ方が面白くもあり、安上りでもあるという。その道の達人の言に耳を傾けられんことを望んでやまない。



旧い探索はこの位に止めて戦後の新しい趣向に目を転じて見よう。**キヤバレー**では駅前通り**北海ホテル**の経営になる**モンパリ**をまづ挙げなくてはなるまい。戦前カフエー時代から引続いている店として一番親しまれている処を。同様**中央ホテル**経営のメルボンは更に駅に近い。小樽の一、二を誇る両者が共に、茶谷社長（大一三）と井林社長（昭九）との緑丘人によっておさえられている事もまたムベなるかなというべきであろう。妙見河畔の**ルムバ**、花園町の**ナポリ**を除いて**現代**、**自養軒**、**メトロ**等殆んどが稲穂町にあることは戦後花園町からこの方向に夜の中心が移ったと見るべきなのだろうか。しかし**スタンド・バー**のセンターは何といっても数年前『花園町大火』として、全国に名を知られた中央劇場（旧日活）向い小路からスパル座を中心とする一帯であろう。**路傍**、**歌麿**、**上海**、**倫敦**、**寧**、**コハマ**、**ラブリーガーデン**、**ボルドー**、**ラメール**、**アラスカ**等焼跡に雨後の筍のごとく軒をつらねた景観は広大な呑屋団地とでもいったらいゝだろうか。寿司屋、居酒屋等飲食店を取り混ぜて、この界隈の店の数は恐らく百軒を下るまいと思われる。それが灯ともし頃から夜半にかけ、さては明け方に至る迄それ相当顧客の応接に暇なしというのだろ小樽人士もヨクヨク納税がお好きであるものゝようだ

戦前学生にも親しみのあったビヤホールの**十八番**は公園通りのさびれと共に姿を消してしまった。その昔の大先輩達の出入をした花園十字街の高橋ビヤホールは勿論あとかたもなく、大国屋筋向い角にあった直営ビヤホールもいまは蒲団店と変って半月形の窓が漸く昔の面影を留めるにすぎない。戦後唯一のビヤホールは丸井デパート向いの**ニュー三幸**だ。一階は昨年改装して**ニュー・ミュンヘン**と改名した。真夏此処をの



代表的 サッポロビヤホール

1階 直営ビヤホール

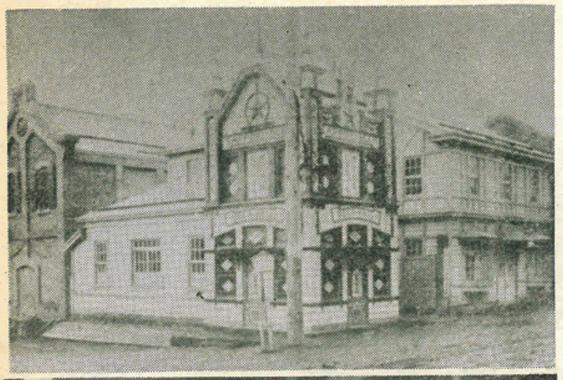
2階 ビヤレストラン

3階 御集会場

ニュー三幸
ニューミュンヘン
小樽市稲穂町丸井デパート前
TEL ②0450 ②6463 ③3933

そいてみると客層の半数は若い女性群で占められているのを認識させられる。東京以北こゝの生ビールの味に定評あることは御膝元の石田副支部長さんに窺っていたゞきたい。

アルコールに頁をとりすぎたので『食べある記』をいそぐことゝしよう。紅燈の巷を脱して駅から北にドライブすること二十分にして、その昔鰊の千石場所祝津（いまはシュクヅと読む）港を眼下に見下す高台の**追分観光ホテル**に至る。冬季間休業は止むを得ないが夏の頃合に赤岩―日和山燈台の絶景を眺めながら、此処で味わうウニ、アワビ、ツブのたぐいは真下の海中から胃袋のなかへの最短コースで新鮮この上ない。忍路高島で名高い追分記念碑はすぐこの下にある。車の序でに戦後クロ



ーズアップされた朝里川温泉郷をのぞいて見よう。此処も駅から車で二十分の距離にある。戦後新開拓の地とはいえ**元湯温泉**を始め**鹿のホテル、吉葉荘、観光ホテル、うぐひす亭、グランドホテル**等がまたゝく間に温泉街をかたち造ってしまった。ロープウエイのあるスキー場を備えて夏冬共に利用度が高い。温泉開発は筆者同期の渡辺一夫君厳父渡辺俊朗氏の手になる事を紹介申し上げると共に温泉入口の**一楽荘**の料理の味が案外気づかれずにいるのではなかろうかと附言しておこう。郊外に出た序でに札樽国道張碓トンネルを越えて**景勝園**をのぞいて見よう。札樽間随一の景勝を誇る張碓断港の上に建てられた瀟洒な洋風建築物が始めての訪問客の目をひきつける。日本海、石狩湾を一望の下に自慢の成吉思汗鍋が一枚看板であったが昨年秋からはホテル部も完成した。緬羊のみづたきもサラツとした味がたのしめる。猶冬期間は休館となるが平磯岬・銀鳳荘の春から秋にかけての小樽港を側面から一望に収める風光は絶佳・また真栄町台上の**和光荘**（何れも北海ホテル別館）の幽すいな環境と料理の味も捨て難い。

さて再び市中へ舞い戻ろう。安直な呑屋として比較的中年層にうけ、うまいのは駅に近い**時代**のようだ。おでんの**ひろ富**、鳥めんの**山浦**。**酒蔵、気分、すきやばし**等もこのクラスだ。大衆向、会食用としては支那料理の**梅月**、**大和屋**、**大増**、**たこ寅**、**たこ芳**等がある。手軽な食事には**トーヨー社**、**ホーマー**、**モリヤ**等を利用する向が多い。**寿司**ではニューギンザ向い小路の**飯田**、**幸寿司**を手始めに**政寿司**、**江戸ツ子**、**天狗**、**都寿司**、**吉野寿司**の外、下町銀行街の**貿易館食堂**はタネも上々だが値段も客ダネ相応である。**そば**は**一福**、**三円**、**加賀屋**、**藪半**、**山安**、**両国**と古い店が多いが、妙見河畔の**東屋**は郷土盛岡のわんこそばを自慢とする。右の外最近とみに数の殖えたものに**居酒屋**がある。北海道特産のシシャモ、ミガキ、イカ、カレイ等の干魚が薄暗い店の爐の上につり下げられていて、お好みによって目の前で焼いて出される寸法だ。**ひとくち**、**いろり**、**おたか**、**おけいの店**、**みのかさや**と枚挙に遑がない。この種の店は中年、青年、男女を問はず客層が広範囲であることが特色だ。焼鳥の**かねこ**は末だにおやぢが健在

株式会社 **中央ホテル** 小樽駅前 TEL代表 ②2005
社長 井林清介（昭7）
キャバレー メルボン　仁寿センター 大増
札幌店
グランドバー メルボン
板前料理 はまなす　クラブ メルボン
札幌市南3条西3丁目　札幌市南5条西2丁目

で公園通りに喫茶の**カール**と共に昔の名残をとどめている。**天ぷら**には電気館前の**天よし**がある。店は小さいが銀座裏並みの味がたのしめる。客層もよいが酒は特級オンリーであることをつけ加えておこう。多少変った処では電気館裏小路の**トーテム**を挙げなくてはなるまい。山小屋風の店のドアを押し開けるとカウンターの上にはセロリを始めとして、野菜、果物、干魚、菓子のたぐいが雑然と処狭きまでに列べられ、天井からは西部劇に見る大きなハムベーコンなどがブラ下がりキテレツな店格構が始めての客をおどろかせ、またたのしませる。酒は ビール、日本酒、洋酒からアワモリに至る迄が取揃い、食べ物は焼魚、味噌汁を始めロシヤスープ、ボルスチのメニューに亘り飲み食いともに多種多様であることは他に類を見ない。小樽山岳会（会長・坂口新宮商行社長、昭一七）を中心とするグループや若い男女の客層が多い。「酒は静かに飲むべかりけり」と落ついた雰囲気を好む人士には北海ホテル内の**バイカウント**が打ってつけである。

なにしろ人口二十万の都市に酒屋が二百軒、呑屋が屋台までを入れて千軒というのだから『飲みある記』もたまったものではない。だがどのような場末の屋台の暖簾をくぐってみても到る処小樽美人の愛嬌とサービスとたのしさがある限り多少の変転があるとしても千軒の呑み屋は当分減ることはなさそうである。

『たのしく、うまく、なお安く』これが小樽のキャッチフレーズであるようだ。

異動

栄転

田中正三（昭一二）
富士銀行本店から同行船場支店長に（大阪市東区南久太郎町三丁目）
飯川益男（昭一三）
三井銀行西田辺支店長から名古屋駅前支店長に
永井正一（昭九）
日本製粉大阪営業部次長から総務部長に
山中茂（昭三四）
東京重機工業㈱大阪事業所から東京事務所企画係主任に（東京都台東区竹町一二二）
白木小一郎（大一五）
日興証券投資信託委託副社長から社長に
五味彰（昭一〇）
北海道拓殖銀行取締役東京支店長を委嘱
従二康三（昭三）
北海道拓殖銀行検査部長から本部調査役に
五十嵐良一（昭一二）
北海道不動産株式会社東京出張所長（取締役）に
山本安次郎（昭二）
滋賀大学経済学部から京都大学経済学部経営学科へ
石川秀雄（昭五）
中龍鉱業所から日本亜鉛鉱業株式会社へ（東京都中央区日本橋室町二ノ一ノ一三井ビル中三号館）
岡田政次郎（昭二）
住友商事株式会社常務取締役東京支社食糧部長から農水産本部長に
矢野正郎（昭一二）
阪急交通社東京主管営業所長から株式会社宝塚女子旅行会館支配人に（東京都港区芝公園二五号地
電話（四三一）六一一一―五）
松岡卯之典（昭一二）
神戸銀行外国部から
The Bank of Kobe, Ltd., New York Representative office 42 Broadway, New York 4, New York, U.S.A.
松本信男（昭一六後）
日本信託銀行大阪支店から本店営業部為替課長に（東京都中央区日本橋通三丁目二―一）
小林芳美（昭一六後）
伊藤商事（株）本社から東京支社紙パルプ部パルプ課長に
山田武（昭三一）
日本化薬（株）名古屋出張所へ
名古屋市中村区広井町三ノ九八名古屋ビル内
田中弘康（昭四）
大成建設東京から大阪支店へ（大阪東区南本町四の二〇）
桜井純一（昭二三）
株式会社新高屋商会へ（副社長）（大阪市北区小松原町二三）
木村吉兵衛（昭一八）
野村証券大阪支店へ（法人部次長）
大島三郎（昭一〇）
三井銀行堂島支店長から同行大阪西支店長に
山本清（昭一二）
三和銀行東京支店経理部長から東京室町支店長に

転宅

浅田厚（昭一二）
神奈川県平塚市須賀一、九五六
五十嵐良一（昭一二）
浦和市大谷場上町十一番七六
豊島保郎（昭一二）
箕面市桜五八番地ノ一三
砥上朝雄（大一〇）
神戸市兵庫区夢野町二丁目夢野マンション
山中茂（昭三四）
東京都世田谷区若林町五三二
電話（四一四）四七五四
谷英純（昭一四）
東京都世田谷区新町一の一四八
電話（四二二）〇三二九
島田五雄（昭三七）
札幌市北十三条東十五丁目　細川繰方
岡田保司（昭一二）
（ニューヨークから帰朝）東京都杉並区天沼一丁目一〇九（電話）（三九八）―七三二〇
鎌島潔己（大一一）
札幌市琴似町山の手七条七丁目
吉岡二郎（大一二）
東京都北多摩郡国分寺町国分寺二六八一（電話）（〇四二三）②〇五四三
実方正雄（昭二）
（町名変更）
尼崎市塚口町三丁目四一番地ノ四（電話）（四八一）四一三五
福島常弘（昭一一）
美唄市東二条南三丁目（三菱大夕張礦業所から三菱美唄鉄道事務所へ転任）（一七頁）

緑丘余話

商学討究

『大野純一名誉教授記念号』発刊

今回母校経済学会は「大野純一名誉教授記念号」として商学討究を発刊した。

加茂学長は冒頭に「大野先生の御功績をたゝえ、終戦直後における新制大学の設置の問題と単独昇格のためどんなに粉骨砕身の努力をされたかは当時の事情をよく知るものゝ等しく認めるところであるが、先生のこの努力と覚悟が出来てなかったならば昇格は最大の危機に瀕していたかも知れない。……今日多くの旧制高等学校が他との合併によって、その同窓生が自らの直接の故郷を失い緑丘の今日の姿を羨望の眼をもってみているとき、緑丘に関係のある人々は、当時の人々とくに大野先生に対して尊敬と感謝の念を深めざるを得ないであろう。

……本学の四〇年の生活を身に対して来られた先生にとってはより一層あの五〇周年の記念祭の当日は先生の人生における最良の日であったに違いない。あの日の先生の喜ばしい顔を私は今でも思い出す。

本学の教育はもとより先生と縁故のある学外の諸先生が、ともどもに記念論文集を編集し、これを先生に献げることのできることは先生に対する何よりのお礼のしるしであり、先生が本当に喜んでいただけることであると私たちは信じている。どうか先生が今後健康になお一層留意されて、本学の将来の発展のために長命されることを私たちは祈ってやまない」と記す。

一橋大学井藤半弥名誉教授ほか十四氏の二五二頁の論文よりなり大野先生の略歴と著作目録を併載している。（日本評論新社二八〇円）

昭和三十八年度三月卒業者の就職予定者発表さる

（37.12.30現在）

卒業予定者　一七〇名
就職希望者　一六四名
決定者　一六二名

（農水産）日魯、日東水産
（鉱業）三菱、明治鉱業
（建設）大成、大平、藤田組、ブルトーザ
（製造）グリコ、森永、雪印、アサヒビール、日本ビール、合同酒精、北の誉、聯合紙器、東洋木材企業、三菱樹脂、内外編物、大協石油、田辺製薬、中滝製薬、日本新薬、久保田鉄工、日本製綱所、西島製作所、芝浦、資生堂、月星ゴム、川口ゴム、日本セメント、日立製作所、三菱電機、富士電機、沖電機、三洋電機、日本電機、日本ビクター、岩崎電気、新日本電機、函館ドック、日産自動車、キヤノンカメラ、サンウエーブ、大日本印刷、ネコス、日本ミネソタ、新宮商行
（商事）東京通商、伊藤忠、岩井、兼松、江商、日商、日棉、三井、三菱、加地貿易、丸嘉機械、日立家電、極東貿易、木下産商、椙崎産業、栗林、東京貿易、高千穂交易、日立月販、伊藤忠自動車、トヨタ自動車、日電家庭電器、八州器材、湯浅貿易、大沢商会、ソニー、I・B・M・㈱、日光商事
（銀行）神戸、住友、東海、東京、富士、北海道、拓銀、北陸、三井、三菱、第一信託、東洋信託、三菱信託、北洋相互、中小企業金融公庫、国民金融公庫、北海道東北開発公庫
（保険）興亜（火災）、千代田、日産、日動、大成、共栄、富士、日本（生命）、明治住友、千代田、安田
（証券）大和、日興、山一、大井、江口
（不動産）東急不動産
（運輸）日本郵船、三井船舶、平和汽船
（電力）北海電力
（其他）日本交通公社、近畿日本ツーリスト、広報社、企画通信社、道新、毎日新聞、電通

坂東虎市（大一〇）編著

伴先生書簡集

利根柳太郎著　野武士行脚　第二巻

推薦の辞　戸井正三

伴先生の書簡は天下の絶品である。これ迄幾度か出版計画がなされ現在も墓目君の手で進行中と聞くが好漢坂東君がいち早く自費出版をしてしまった。

坂東君は計理士ではあるが、その文才は緑丘会員中でも出色のものである従って此程の編集には最適任であったと思う。

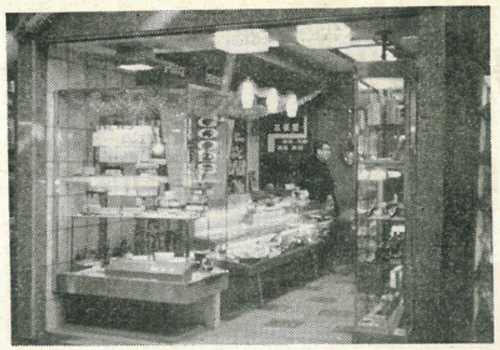
手紙は坂東君宛のものに限られた不満はあるが先生の手紙はどの部分をとっても珠玉の名文であるから先生の書簡集出しては遺憾の無いものである。のみならず年代順に保存して解説をつけられる人は坂東君を措いては無いと思う。

とも角先生の書簡集が出版された事は色々な意味で欣快に堪えない。惜しむらくは坂東君目下健康を害して頒布の仕事がやれないので最も親しい私が彼に代って配布を引受けたいと思い、敢て全国の同窓各位に購入を希望する次第である。俗な言葉であるが読んでつまらないと言う人には代は要らないといいたい程立派な内容である。同窓生には特価二百円位で分け度いと思う。一千部の限定出版であるから、やがて売切れ絶版と言う事も考えられる。

優良店舗コンクール

大阪市長賞を獲得した

尚美堂　阿部啓作君（昭一七）



数多いサラリーマンと異って自営と称する高商、商大卒業生も相当数である。阿部敬作君（昭一七）もその一人。万年筆を業としているが、今回大阪市の優良店舗のコンクールで四〇〇余店のうちから市長賞を勝ちとった。一寸宣伝めくが卒業生の中には眼鏡屋さんもおれば、時計屋さんも金物屋さんもおる。何かの参考ともなればと思って取り上げて見た。日本経済新聞（十一月三十日）は次のように伝えている。

「自由化で舶来品が多くなったため高級店らしく最近、改造したばかり、万年筆というより貴金属店のような感じの店だ。左側のショーケースのなかは単調になるのを防ぐため二段にしてゆるい傾斜をつけている。荒い目の布地の上に並べた万年筆も効果的だ。また左壁面の構成もうまく、クロス張りのV字形をレイアウトし、空間に経営信念を金文字で書いた黒のガラスもハデなかに渋味があっておもしろい。つり花びんやモールなどの補助装飾にも上品なムードがうかがえる。

奥には舶来品コーナーを設けているが、陳列を低くし、入り口からでも見えるように気を配っている。客がはいると柔らかい音楽をかけ目と耳からのムードづくりに成功している。

関西北海道人クラブに緑丘人参加

故郷を遠く離れて関西に来ている人々は老いも若きも一堂に会すれば小学校時代、中学時代、高商時代を憶い出してある時は童心に帰える。

こゝに集った関西の緑丘人は何れも童顔許りで人のよさそうな人物である。石狩鍋、ゴジョイモ、バター、チーズ、サッポロビールで十二月雪印都島の工場に集った。ある人曰くこのメンバーは甲、と丙で乙がいないと。緑丘人は甲か特に品のよい方が集まる。

この日北大勢に押され気味「都そやよいの雲紫に……」やケイテキ寮歌が高らかにひゞく。

小樽高商、小樽商大のいきのいゝ所が多数参加を望んだのは筆者許りではなかったであろう。（大竹記）

右から堂城相談部長，石田平八大阪副支部長

会社の記念用進物用に最適のネーム入り

最新型　オネスト'66 プラチナ萬年筆

尚美堂

梅田店　梅田地下センター（完成次第開店）

千林店　大阪市旭区森小路町8～46　TEL(951)5316　阿部敬作（昭17）

〝伴房次郎先生の追憶〟

先生はあなたの声（憶い出）を待ている

（投稿）

〆切 3月31日

……あなたの顔もここにある……

（金婚祝賀会 椿山荘で S.29.4.8）

〝伴房次郎先生の書翰と追憶〟も原稿締切の時が来た。

この写真は伴先生金婚式祝賀会（椿山荘昭二九・四・八）当時のものである。

今お届けしたこの頁を御覧になって、すぐ御投稿いただければ伴先生もさぞ喜んで下さることであろう。伴先生はあなたの声を待っております。

伴先生は私が二年生の時に退官されたのであるが、直接教えを受けた先輩たちの一人一人の名前を先生は退官後も毎日楽しそうに、同窓会名簿の頁をめくってはあなたの顔を憶い浮べておられた。その姿をこの目で見た一人である。どうぞ椿山荘の金婚祝賀会に御参加の方々は伴先生の追憶記を御投稿下さい。

先輩各位の憶い出の御投稿を期待し、立派な〝伴先生の書翰と追憶〟出版の日の一日も早からんことを願う者である。

（蕃目）

「緑丘」に既発表分（追加）執筆者

伴先生の暖かい息吹　西川正己
恩師と鮎　富永政資
伴先生のハガキから　中村賢二郎
〃　神沢重治
鮎と泪　山村太兵衛
伴先生のハガキから　渡辺羊三
京都中学時代の伴先生　寺田弥一郎
伴先生のハガキから　白土栄一
〃　木村慶七
〃　武内武一

「一冊の本」をわれらの書架に

―緑丘同人に訴う―

板垣与一（昭四）

「伴房次郎先生の書翰と追憶」の刊行企画が本誌に発表されてから、すでに一年半の歳月はすぎた。緑丘誌最近号は「発刊近し」を報じ、編集努力もいよいよ最終段階にきたことを告げている。われら緑丘同人はこの企画の成功を冀い、敬慕する伴先生の温容溢るるお写真や、慈愛こもる書翰遺墨集と先生の佛を偲ぶ追憶文集が立派な一冊の本となって、一日もはやくわれらの書架を飾る日の来らんことを待望する念切なるものがある。

しかし翻って、現在の時点における編集状況では、はたしてわれらのこの熱望がみたされるであろうか。私はあのページをみた瞬間、編集子蕃目氏の口ではいえない不安と焦慮の念を行間に読みとったのである。

緑丘誌を受けとる者毎号一五〇〇名ときく。十月二十日現在申込者八〇名、申込部数一〇三冊。これではあまりに少ない。限定出版とはいえせめて五〇〇部刷らなくては計算もたたないのではないだろうか。この状態のままでは、永久に記念すべき本企画もついに実行不可能となるおそれがあるのではないか。

この事業の意義は決して直接に教えを受けた人々の範囲にとどまるものではない。いやしくも緑丘に学び緑丘を巣立ったすべての同人の共同事業でなければならない。本来ならそのような形式をととのえて発足すべきであったという人があるかも知れない。しかし形式のみ重んじても一粒の麦を蒔く人が出なければ何事も成るものではない。現にこの緑丘誌の誕生とその発展は如実にこれを示している。今日では本誌をわれら緑丘人の共同財産でないという人があるであろうか。何としても自然発生的な努力が尊いのである。本企画もこのような自然発生的熱意の流露である。これが成功すればやがてまた他の新しい有意義な企画が、同人有志の手によって生れるであろう。

「吾人屁理窟を知らず、幸いにして元気あり」――これこそ緑丘で学んだ不滅の精神ではないか。

本企画をいっそう充実したものとするために、一刻も早く写真を、書翰を、遺墨を、追憶文を編集子に送れ。いまだ申込みなき人は友人を誘い合わせ至急ハガキにて申込まれよ。

「人生は長し、締切りは短し」

（一橋大学教授）

日立家庭電器特約店

日電家庭電器販賣株式會社

取締役社長　天野雅司（大正15年）

本　社　大阪市福島区海老江上1丁目18　電話 (458) 1951（代）　1952―8
京都営業所　京都市下京区五条通高倉西入万寿寺町146　電話 (35) 1935.4782
神戸営業所　神戸市東灘区御影町石屋字狭間185の1　電話 (85) 6750.6360
高槻出張所　高槻市大字高槻444　電話 (5) 0506

まんぴつ五人集

次回

増井得三（大八）
小橋庸三（大一一）
北条恒一（昭一四）
日南田美文（大一二）
紫竹亜津視（昭一一）

よく走った思い出ばなし

三好長次（倶知安）

若い頃から走ることが好きだった僕はちょっとでも暇があるとよく走った。学校を出て会社につとめるようになってからも休日などには人通りの少ない道を選んでよく走ったものだ。その当時はいくら走っても息ぎれがしたり、疲れたりしないのが自分でも不思議に思った。そして同じ走り仲間がハアハアして時々アヽコワイと言いながら走っているのをおかしく思ったりした。ではいつ頃から走り始めたかといへば中学校の四五年の頃から高商卒業後二三年位の間は実によく走った。其後はお天気である限り最近まで朝食前三十分位は四キロ三十分程度の速さで走りつづけていた。これが保健上非常に効果があったことと思う。

それで緑丘に縁ある高商在学中のランニングについての思出ばなしを遠く四十数年前の記憶をよびおこして紙面の許す限りかいて見ることとする。

元来僕は体が小さいし従って足も短かく、それに無類のスロモーときているので短、中距離は全然だめ専ら長距離を楽んだ。お天気のいゝ時にからからかな日光を浴びながら悠々と走る心地よさは経験をもたぬ人には恐らく推測すら出来ないことと思う。僕たちが緑丘に学んだのは大正の初め頃でしたが、その頃は今のように記録などはあまり問題にする人がなかった。丁度いまの幼稚園の園児の運動会のようなものでコースでも距離でもスターターでもジャズでも全く適当なものであった。現在の若い人には想像もつかぬことと思う。

その当時僕は学校の前庭で前方に遠く小樽港も見下しながら、あの畳を敷きつめたようなクロバーの上をハダシで何十回となくグルグル走り廻った記憶がある。僕たちより一二年あとの北斗寮の長尾新一君も走るのが好きでよく一緒に走った。また当時下の庁商（現緑陵）に樽見さんという先生がいて、その先生も走るのが好きで生徒を連れてよく走っていた。日曜日に札幌まで生徒と一緒に走るからと再三誘はれたものだが、とうとう一度もおつきあいしなかったのが残念に思っている。

また、その頃小樽の三菱商事に松井喜三郎さんという慶応大学を出たばかりの人が来て花園公園で林一正君などと共にコーチをうけた。色々といゝお話が沢山あるが紙面の都合もあるので省略する。

最後に一つ学校行事として行はれた小樽塩谷間のマラソン競走のもようを披露しよう。

たしか大正五年か六年と思うが当時学校では毎年五月末頃に花園公園で大運動会を挙行した。高商の大運動会は小学校の連合運動会と共に当時小樽の名物でもあった。それで市内のお店やさんや名士の方々から賞品の莫大な寄贈があった。その頃は今のように寄附はやりでもないし、僕も運動会の役員をしたけれども寄附の依頼に出掛けた覚えがない。賞品など校友会の予算で賄ったので他から寄附を募集する必要もなかった。

でも市内のお店やさんや名士の方々から沢山の寄附の申込があったような記憶がある。いまの若い人達にこんな話をしたらさぞ羨ましく思うことでしょう。

こんな具合で運動会だけでは何としても寄贈賞品があまるのであった。このあまった賞品の処分方法として小樽塩谷間のマラソン大会が行はれたのであった。

頃は六月上旬と思う。参加したのは五六十名見当、小樽駅の後方富岡町の道路がスタート、それから塩谷街道一本道距離は八キロ余りでないかと思う。最初は型の如くトップグループがきまるまで全員全力疾走その内一人おち二人おちしてトップグループ十名内外が一塊になるまでゴツタ返し大体千メートル位で一落着するのは定石通り。それから暫らくの間大した波乱もなくレースを行い大体半ば位四キロの地点まで十二三分はかゝったことと思う。この辺まで来るといつの間にか僕の外に、板垣、林、関根、水戸部と五人となった。この五人は日頃からの走り仲間なので仲よし連中でもあった。日頃大して練習もしてないので皆相当に疲れているのは勿論である。誰いうとなしに、ビリになっても五位だ。賞品は相当のもの当るよ。ゆっくりいこうよと全員賛成漫談しながらお役目に走った。処々の関門には先生や校友会の役員が頑張って激励してくれたり水をサービスしてくれる。

その関所の処では五人共いとも真面目にはしり続けた。いよいよ最後の関門に来た。最後の関門は国松豊先生だ。もうラストだ。頑張れ、八百長やっちやいかんぞ〃大喝一声さあ大変だこれから真剣勝負をやろうと五人皆全力を尽して疾走した。まづ水戸部君が諸君お先にどうぞと言って我々について来なかった。次に関根君はあと君達に委せる俺は四番で沢山だ。野球も僕は四番だし丁度いゝやとつぶやきながら悠々とはしっている。あと五〇〇米位三人はピッタリヒッツイテ離れない。二米ヒキ離したら占めたもんだと三人ともあせる。ひき離されまいとひつつく。その辛さは胸がいまでも張裂けるよう。その時前の松井さんのお話を想い出した。マラソンで疲れた時は一緒にはしっているライバルは自分よりもっと疲れているんだ。でも頑張っているんだ。そう思って強引に相手を振切れと。僕は急にスピードを出した到底最後迄もって行ける自信も見通しも何もありやしない。それでも両君はピッタリついて来る。こゝだと思って、なおもスピードをゆるめない。ほんとうにその辛さは表現のしようもない。かくして一歩、二歩、三歩と歩を運ぶ内について来ないような気配がしたので振返って見たら三米位おくれてはしってくる。しめたと思ってやゝスピードをゆるめるとすぐ追いつかれる。追いつかれれば、また離す、そのありさまを繰返しながらとうとう決勝点まで三人殆んど一緒であった。結局一位僕、二位板垣、三位林や、後れて四位関根、大分後れて五位水戸部、六位以下ずっと後れているので全然記憶がない。

翌日小樽新聞にタイム三十二分と発表された。庁商の樽見先生に後日会った時に三十二分とは随分かゝったものだねと言はれた。樽見先生の話では庁商では、あのコース二十八分位だそうだ。成程その筈八キロ余りの処三十二分もかゝっては辱かしい話だ。庁商あたりで二十七八分が普通で専門学校や大学では二十五六分位でないといけないと思う。しかし、これは仲のいゝ連中の途中の漫々デーや殆んど練習しなかったことや、未知のコースなどを計算に入れればどうやら及第点をやってもいいと思う。

それから四十年以上今日迄病気らしい病気もせず、いまもって足の疲れはあまり感じないし、またもう古稀も間近というのに近所のニセコや羊蹄山の山登り位は何でもないと思っている。

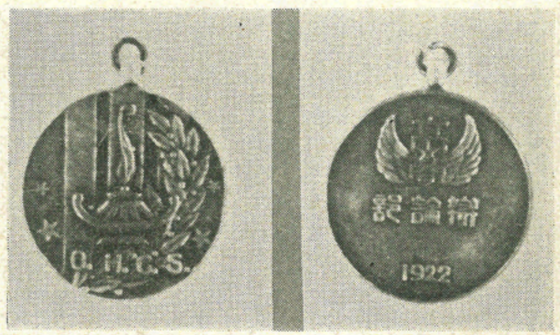
次は東京都太田区久ケ原町一一三七　増井得三君（大正八年卒業）（日本ミンク毛皮販売株式会社社長港区芝新橋四の一新橋ビル）お願いいたします。

（大八　経営調査士（但知安地方経営研究会事務局長））

私と記念メタル

宮地邦介（大一一）

私には四十年来持ち続けている一つの記念メタルがある。それは小樽卒業の際部員が当時としては大枚二円宛を集めて造った弁論部の記念メタルである。デザインは何づれ相沢、越崎という秀才連が考案してくれたものとおもっている。



大きさは直径二糎五粍の円型で地は白銅、片面には月桂樹にポーラースターを散りばめ、下部にO・H・C・S・の文字があり、上部には金色燦然と輝く洋燈がこれまた熱血の象徴ともいうべき金色で二条の焔を吐いて浮き彫りされている。裏面の上部には当時の帽章を刻み、高商の金文字が懐しく光っている。下部に一九二二と横文字が見え、四十年の歳月を物語っている。

同窓諸君にも夫々記念メタルを御持ちの方が多いとおもうし、メタルに因んだ懐い出も多いことゝ考へ、私のメタルに因んで暫らく回顧に耽ることにした。

私の入学したのは大正八年で当時の弁論部先輩には同じ玉井寮に管谷重平さんや佐藤正雄さんがいたと記憶している。管谷さんの大西調の名演説や下条貞秋さんの熱弁もいまだに私の耳底に残っている。

同級の部員には、相沢、越崎、井上、小林、伊藤の諸君がいたが、この間に異色の劣等生であった私が仲間入りしていたのは奇縁と申す他なく、未だに不思議に想っている。弁論部にいて一番楽しい懐い出では北海道遊説の旅である。部長の大西先生が差支えのため、副部長格の椎名先生が引率され、介添役として武田先生が同行され生徒側は前記の諸君に一級下の安田君が加っていた。

留萌、岩見沢、旭川、室蘭等を廻ったが、ある夜、岩見沢小学校の講堂で私の喋っていた事が立会の警官氏の忌避に振れたらしく演壇に武田先生からメモが届けられ「演説要旨を転換せよ」と書いてあった。早速然る可く方向転換して、その場は御茶を濁したつもりだったが、後になって椎名先生から伺ったが、その警官氏は「あの生徒はけしからんことをいった。留置せねばならぬ」と強硬に申込んで来たそうだが椎名先生

が弁明これ努めて下さった御蔭で危く検束を免れたとのこと。警官氏を怒らした私の迷演説の要旨はすっかり忘れてしまったが、この一事はいまもって椎名先生の一つ話となり六十の坂を越した私も先生の前では頭の上らぬ因縁の一つとなっている。

次に忘れ得ぬことは大正十一年二月八日早朝のことである。弁論部員が特に私淑していた大西先生急逝の悲報に接し、相沢君等と共に機馬車を駆って雪の曠野を避病院に駈けつけ白布に覆はれた先生の御遺骸を拝した時の思い出はいまだに私の脳裡に焼きついている。其後小林君も死んだ伊藤君もまた……。小林君については北海道遊説の折、室蘭の夜「快楽と苦痛の幽境」と題する名演説をやって聴衆（特に労務者が多かった）の共感を呼んだことを覚えておるが折角一ツ橋に進んで卒業後某火災保険会社に入社したが、余り恵まれずして夭折したとの事、彼の愛称チンチヤンの名はいまだに覚えている。

そして生き残った部員も夫々還境も異り相貌も変じた、只私の手許に残っている此の記念メダルだけは、四十年の歳月をよそに色も型も昔の儘である。こう書いて来ると大方の読者諸君は「アハ、また持チ前の抹香談義が始まった」とおもはれるかも知れぬ。

しかし、このメタルを見る時の私は違う。浮彫りされた洋燈の焔は私の熱血を呼び戻してくれ、仕事に対する情熱をかきたててくれる頭はげても何んとやらで若い人達に伍して快哉を呼ぶことも出来る。斯くてこのメタルは老境愈々私の大切な伴侶となっている。

次は小橋庸三（武蔵市吉祥寺九五二）さんにお願いします。

（大二　日邦工業㈱監査役）

十三年振りの北海道

石黒政夫

（札幌）

依頼状を頂戴して、はたと困って了った。私は書くことゝ、宴席での余興をやらせられることが大の苦手なのです。性来の筆不精であり、書く気になれないのである。宴席での余興は夫々の興に応じて好き勝手にやるもので強要するものではないと思っている。従って強請されると席を立って帰ることにしているし、そのような恐れのある宴席には出席しないことゝしている。しかし、このまんぴつ五人集は我儘を許されそうもない。お断りするにも日数がないし、一人欠けても駄目だからである。まして編集長の「三十三年から現在まで皆さんの御協力で五年間続いて居ります云々」に瑕をつけることゝなるかも知れない。困ったとおもっているうちに一日、二日と経過して行く、なまけ者がやまも外れ、何も書けず、ええままよと何でも知っていることを答案に書く心境である。

さて十三年振りの北海道は札幌を中心として、どんどん成長発展をしているようである。

まづ道路が非常によくなってきた。昔は何処え行くにも汽車を利用しなければ行けなかったが今では自動車をフルに利用出来るようになった。私の商売上非常に助かる。しかし日本の道路、鉄道、港湾設備等まだまだのようで、日本の貨物輸送は平均時速六キロメートル、アメリカのそれは時速二十キロメートルと聞く、従て日本は高金利の上に、商品はお金になるまで人間の歩く速度で動き、アメリカの三倍強も時間がかゝっている訳である。北海道の道路もこれからだが、それでも大分よくなって来た。

次に飛行機の便がよくなってきたことだ。東京との距離がぐんとせばまり、いまや札幌は東京都札幌区の観がある。昨夏着任して愚息が開口一番、札幌は東京の三軒茶屋に似ていると評した。また当社の或人は小職をスモール東京支店長ともいう。東京の有名業者が札幌に進出して来ない処がない程に東京化した札幌である。本州業者がここ数年のうちに百数十社進出して、北海道の将来性に期待してしのぎを削っている。ペイする処も、しない処も何れも皆北海道に期待をよせているのである。北海道の地の主要都市函館、室蘭、小樽、岩見沢、苫小牧、旭川、帯広、釧路、北見等夫々に大分変って来ている。果して北海道の将来はどうなるであろうか。過大評価する人、悲観的な観方をする人等様々である。商売柄この問題には非常に観心が深いが、このことはまたの機会にゆずることとして一寸私事にふれてみます。私は小樽に生まれ、小樽で育ち現在の会社に勤めました。振出地は大阪、それから東京、札幌に参りました。終戦後は、この逆コースで札幌から東京、大阪の順序で転勤し、昭和三十二年には再び振出地からやり直しで大阪、東京から現在の札幌ということで、結局今迄に、大阪二回、東京二回、札幌二回で、特色として三ケ処を順序よく歩いているということゝ、戦後の日本経済の大きな調整期に転動しているということである。

戦後の日本経済は御存知の通り、その成長、発展の過程において、四つの大きな調整期を経験した。第一は昭和二十四年、ドッチ・ラインによる急速なインフレ収束過程に生じた不況期。第二は朝鮮動乱ブームのあと二十八年から二十九年にかけての景気調整期、第三は、神武景気の行き過ぎの結果、三十二年中央にとられた強力な金融引締めと、それにつゞく三十三年のなべ底景気の時期、そして第四は、国際収支の悪化から三十六年度半に金融引締めによる景気調整を余儀なくされた時期である。ともかく戦後の日本経済は二十四年、二十八年、三十二年、三十六年と丁度四年目ごとに景気のターニング・ポイントを印してきた。これ等の年が小生の転任時期となっているということである。因みに昭和十四年大阪入社、昭和十七年東京、昭和十八年札幌、昭和二十四年東京、昭和二十八年大阪、昭和三十二年東京、昭和三十六年札幌という訳で何れも所謂不景気突入期の転勤で着任地では苦労が多く、頭をあげて歩くことも出来ない位であった。

しかし、これからは本格的自由化、低金利政策等々により戦後の今迄のような日本経済の様相と変り、前回の調整期から数えて四年目のシンクスは破れるのではなかろうか。そして小生の転任時期も日本経済の調整期と共共に歩かなくて済むのではなかろうか。

次のバトンを東京で活躍の北条恒一君（東京都千代田区神田駿河台四ノ二）にお願い致し度く思います。

（昭一四　野村証券札幌支店長）

結婚三十八年

若林周五郎

（島根・信久㈱）

外出先から帰って見ると待ち兼ねていた「緑丘」が来ていた。早速頁を繰って見ると「まんぴつ五人集」に同期生佐藤信雄君の「浜林先生のこと」がのっていたので懐しい「浜さん」を追想しながら読み終った途端次のバトン受取人に「若林」と指名されてあるのに愕然とした。

生来筆不精な上へに作文が何よりの苦手と来ているので全く困ってしまった。しかし、いくら下手でも書かねば責任が果せないので思い切ってペンをとった次第だ。

卒業以来明年で満四〇年を迎える事になり、東京在住の同期生諸兄の肝入で、明年三月二十一日から二十二日にかけて四十週年記念同窓会が熱海で催される事を先般世話人の石川一君から連絡があった。これには何は置いても妻と一緒に出席したいものと楽しみに待ち望んでいる。

三十週年の時は父を失った直後で残念ながら欠席したが三十五週年の時は湯ケ原温泉へ出席した。当日は中々の盛会で、いまでもあの日の事を懐うと懐旧の情に堪へない。私は卒業後大阪の山口銀行「今の三和銀行」に小樽高商から第一号として入社したが一年半位で田舎から是非帰って酒造業を手伝へとの事でとうとう生れ故郷で清酒開春醸造元を経営する事になり、おかげで毎日好きな晩酌に事欠かさぬ身となった事を喜んでいる。

私達は結婚後三十八年目の今日娘二人と息子一人それぞれ結婚して、いまでは九人の孫が生れ、私の生来の禿頭は年と共にいよいよ光沢を増して来た。現在の願としてはせめて初孫娘（東京都国立町国立小学校六年生）の結婚式に老夫婦一緒に列席して老のしやがれ声を振り絞って、「高砂」を謡って祝福出来たらとは今の私のはかない望みである。

三年前当地方国鉄主催の「東北及び北海道」への観光旅行団体に参加し卒業後初めて想しの母校を訪れてしばし感無量であった。また美幌峠を経て阿寒湖畔の「マリモ」を探勝しホテルの隣のアイヌ人経営の土産物店で酋長の服を借り店主「山本ヌプリさん」と二人で記念写真を撮ったのも懐出の旅の一コマでもある。将来出来得れば老夫婦でゆつくりと小樽を振出しに北海道全土を見物したいのが結婚以来の私の宿願である。

私の住居は山陰線出雲大社から約二時間位で「温泉津駅」から徒歩で約五分のところで日本海岸の温泉と港のある小さな町です。「出雲大社」御参拝の節は是非共御立寄り下さい。何は無くとも酒だけは事欠かしません。

次のバトンは御迷惑でも同期生の日南田美文君に御願いします。

横浜市中区山下町二一一
堀見商会取締役総務部長
住所　東京都目黒区宮ケ丘一八七〇
電話（七八）一二一八
（大一二　若林酒造有限会社支社）

年末から年始にかけて

丸山一郎

（土別）

北海道も御多聞に洩れず年末ともなれば交通事故も火災も内地並に続出した。そして新年が来ると新雪に朝日がさすように自分の気持もパッと明るくなり、交通事故も火災も新聞紙上から消えて行った。

然し正月三日は人の心を暗くする雪山の遭難事件が発表された。大雪山系旭岳で学大函館分校山岳部の遭難事件で、死者、行くえ不明者合せて十人という本道山岳史上最大の犠牲者を出した事である。捜索隊は連日スキーをはいても腰までぬかる大雪の吹雪の中を尾根づたいにはって捜索に当っていた。一時間にせいぜい三、四百米より進めないとの事だ。ラッセルする人は十メートルずつ交代でやり、捜索隊のハンデイトーキーも寒さで用をなさず機械を体温で暖めながら通話をはじめたようである。四人の行衛不明者を残して捜索打ち切りとの事を聞き、遺家族を思うと胸がしめつけられるようである。費用と発見の見通しがないからであらう。生き残った野呂君の苦衷も察せられる。

人間の心も年々すさんで来ている。バスに乗ると年よりに入口だけ手をかす車掌はあるけど発車オーライをすぐかける車掌の何んと多い事か〝朝の食卓〟（北海道新聞）で松尾教授が義憤を感じておられる記事を読んで三十七年のベストワンと快哉を叫んだ。私も同様の経験がありにらみ返した先生の気持も判るようである。

人の世の気持のすさんでおる中にあって人と人の心をつなぐヒモを何時もたやさず握って居ってくれる緑丘の尊さに頭が下がる、誰れがなんといおうと続けてくれたまえ。

次は、東京の紫竹君へ御願いします。

（昭一一　旭川米穀㈱商事支店長）

小樽とスキー

＜シャンツェ＞

▼小樽シャンツェ（小樽天狗山）昭和二十六年、ジャンプ指導者秋野武夫氏の設計でつくられた市営の80メートル級台。長距離飛行をやっても、ほう物線がランディングバーンの曲線と平行してフライトがあまり出ない。いわゆる安全な飛びやすいことでは日本一のシャンツェである。全日本、国体、インカレ、インターハイなどのビッグエベントに使われている。

【バッケンレコード】
菊地定夫（雪印）79㍍50＝36年

▼汐見台記念シャンツェ（小樽東郊）

昭和八年の建設で、道内屈指の伝統あるシャンツェ。小樽シャンツェができるまで日本一のジャンプの都小樽の〝鳥人〟養成所の感を呈し、いく多のオリンピック選手がここから巣立っていった。スタート台に上るとランディングバーンが見えず、いきなり町並みが拡がり、その向うは青い小樽港―まるで海へ飛び込むような気がする。おまけにフライトが高く、さながらエレベーター・ジャンプで、他の土地から遠征してくる選手たちにとっては気持ちの悪いジャンプ台である。50メートル級。

このシャンツェ下、ランディングバーンの突き当りに住宅があり、すべりすぎた選手が勢い余って縁側のガラス戸を破って座敷に飛び込み「コンチワ」と家人にあいさつしてノコノコ玄関から出て来た。以後その家でヘイを回したという伝説もある。

【バッケンレコード】
吉沢広司（樽潮陵）52㍍＝23年

＜ゲレンデ＞

小樽市内は坂だらけ。極言すれば街じゅうゲレンデだが、交通事故のおそれがあるのでそうもいかない。この小樽はまさに〝スキーのメッカ〟であり、幾多著名な国際スキー選手を輩出している。三月下旬には全市民あげての「スキーまつり」も催される。

▼天狗山（五三二㍍）　選手用スラロームコース、リフト、ヒュッテ、シャンツェがよく整備されて、競技スキー場としては全国一といってよい。全国選手権、団体、インターカレッジインターハイ、全道選手権など幾多の有名大会に使われてきた。リフトは延長七百二メートル、コースは全長一千メートルに及ぶ。ヒュッテは二むねあって休憩無料、百五十円出すと泊まれる。ふもとまで最上町のバス終点から歩いて十分

▼毛無山（五四八㍍）　市内の奥沢口からはいっていく。滑降コースが開発されており、多くの大会に使われてきた。前半のラクダの背、後半の大カベなど選手泣かせのコースで大衆向きではない。

▼朝里川温泉　札幌から直通バスが通じ、日帰りも楽だ。温泉ははいったり、すべったり、全くの中級・初心者向きスキー場である。

【元湯旅館スキー場】＝旅館の裏山にいちばんよく整備されたゲレンデを持っており、延長二百五十メートルのリフトもある。夜間照明が完備しているし新しいスキーロッジもきょ年完成した。ロッジの宿泊料は六百～千円、本館は千～千八百円、休憩は入浴料込みで二百円。貸しスキーとくつは百五十組の用意があり使用料百～二百円。本州からのスキー観光客もふえている。

【市営温泉センター】＝日帰り客だけしか扱わない。休憩料はおとな百円、子供五十円。ゲレンデには百五十メートルのリフトがあり、貸しスキー、くつは五十組、使用料は百～二百円。

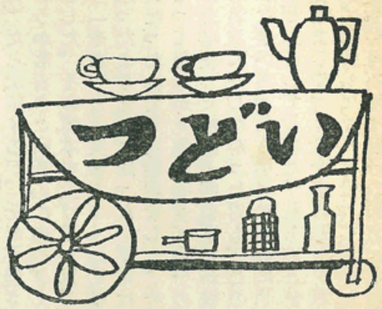
【宏楽園】＝休憩百七十～二百五十円、宿泊料一千～千八百円。ゲレンデのリフトは百四十メートル、貸しスキー、くつは三十組あり使用料百～二百円。

▼春香山（九〇六・九㍍）　函館本線銭函駅で下車して歩いて三時間（七キロ）でヒュッテ銀嶺荘に着き、さらに三十分（一キロ）で頂上に達する。北面の中級者向きツアーコースで、針葉樹林を抜けての下りは山頂から駅前まですべって降りられるといわれるほど滑降距離の長いことで人気がある。

＜ヒュッテ＞

【小樽天狗山ヒュッテ】▽天狗山北面シャンツェ下▽小樽4キロ▽50人▽燃料、宿泊用具あり、番人常住▽小樽市役所管理、教委体育係あて。

（月刊北海道百景から）



25周年を迎えて

昭和12年卒東京同期会集まる

樋口健三記（昭12）

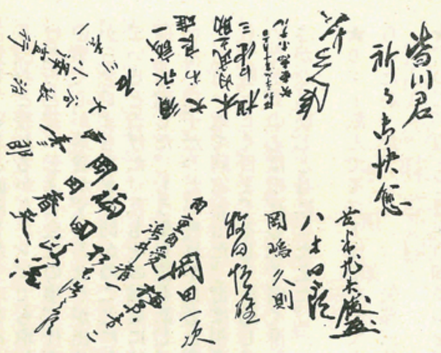
学窓を出て満二十五年を記念し、十月三十日東京築地東急ホテルにおいて、苫米地英俊先生、南亮三郎先生、大谷敏治先生、木村重義先生をお迎えして同期会を開催した。諸先生極めて御健康、皆と楽しく歓談されておられた。

やがて梅原幹事の挨拶に続いて、苫米地先生の御発声で乾杯により会が始められた。

恩師と共に語る緑丘の懐い出、一人一人が話す戦時中の苦労ばなし、そして戦後から今日への歩んだ各人の懐旧談は夜遅くまで続いた。

十時も近い頃、母校の隆昌を祈って南先生の御発声で乾杯、浜井君のリードで校歌斉唱し意義深い会合を閉じた。その間、浜井君から皆川君（大阪毎日放送）の病臥中の報が伝えられて「祈御快癒」と寄書をする。浜井君に託したが十一月二十日遂に他界されたとの事、誠に惜しい事をした心から御冥福を祈る。

当日は小樽から岡田一次君、高岡から浜井君、糸魚川から八木君等の参加あり、また各支部からは本会開催に際して祝辞を頂戴した。紙上を借りて御礼申し上げる次第である。



皆川荘一君（昭12）の死を悼む

皆川荘一氏（毎日放送制作局次長）二十日午後二時五分、大阪市西区阿波座、ガラシヤ病院で直腸ガンのため死去。四十七才告別式は二十一日午後二時から西宮市カトリック夙川教会で。自宅は西宮市神楽町四一。

皆川荘一君はガラシヤ病院でロザリオを抱いて眠るように昇天した。

彼は卒業後雄図を抱いて満州に渡り電々公社へ就職したが終戦と共に故国日本へ家族と共に苦難の生活を経て引揚げ、同期矢野正郎、内藤好生両氏の尽力で新日本放送創設時に同社へ入社、爾来テレビ営業部次長、ラジオ営業部長と営業畑を次から次へと新企画を樹てゝ今日の毎日放送局を育てゝ来た。その間アメリカ、ヨーロッパを視察、一昨々年国際見本市を計画するなど目のさめるようなヒットを打って来た。

一方緑丘大阪支部にあって募金の推進委員となり尽力した。

この「緑丘」の創刊以来協力を惜まなかった。放送事業という夜の仕事に精力を打ち込む時間の多い彼には「緑丘」を手伝って貰うのは誠に気の毒ではあったが特集号の時など頁数の多いものには進んで校正を買って出てくれた。文学的素養のある彼は赤インクをもって文章を直し誤殖の訂正に涙ぐましい努力をしてくれた。それだけに特集号の発刊もまた私には苦しいなかにも一つの安心感があった。この「緑丘」続刊の影にはこうした彼の努力のあった事を忘れてはならない。

六月阪大病院に入院して開腹手術を受け、四時間の予定が二時間で終った時血の気の引く思いをしたのはキク子夫人も私も口には出さなかったが同じ思いであり、もう駄目だと思った。しかし九月頃には元気を回復、「もう出社したい」ともらしていた。

其間、浜松から度々寺田君が来阪して見舞ってくれ同期の親切さにたゞ頭が下った。しかし再度入院（ガラシヤ病院）する事となり勝胱に残った癌は活動を開始した。助け度い一心で抗癌物質を信州から取りよせて今日まで来たのにと思うと涙が止まらなかった。

十一月十九日、目だけでものをいう（口も耳も全然作用をなさず）彼の手を握った時はすでに冷え切っていた。

（編集部記）

「緑丘」編集に協力する皆川君（右）

楽我記

皆川君をしのぶ

豊島保郎

（昭一二）

皆川と云えば小樽の第一寮で右手の指を茶色に染めてうまそうに煙草をのみ酒好きで高い下駄で地獄坂をおんちのばん声を張り上げて登って行く彼の姿を思出す。

皆川の父は軍人だったと聞いていたが、凡そ軍人らしからぬ彼だった然し満州を志した彼にはやはり、その血筋はあったようだ。

大阪へ来てから毎日放送での彼の敏腕は誰しも認める所だ。学生時代より一廻りも肥え大分貫録もついてきたと思い喜んでいたが好漢も病魔には抗し得なかった。

彼の入院を聞き病院に彼を見舞った時、彼は病室にて一人で本を読んでいた。丁度奥さんと行違いになったらしい私は彼の読書（確か奈良紀行）だと記憶するが、その平静さというか落着きと研究心に内心ぎくりとした。その際本を上げ私を見るなり「やあ」と大変喜んでくれた彼は思ったより元気で語った。平常は丈夫だったんで大変無理をした。今になって思ふが元気に委せて自分の身体を酷使した原因不明の下痢が続いたが意に介しなかった君も、このような事があったら早目に医者に診せろと忠告してくれた。私も彼と色々と励ましゆっくり今迄の過労を取除いて保養してくれと云っておいたがどうも内心彼は自分の病名と余命は自覚していると直感した。本をあまり読むと疲れるからテレビでも取付けたらと彼に云ふと会社の事、仕事の事で心が落着かず、あせりが出るからラジオもあまり聞かぬことにしていると告げた。私もその言葉には痛く感動した。もう少し彼も話していたい様子だったが疲れが出ると悪いと思い敢て病室を出た。街は相変らず騒々しく目まぐるしく活動していたが私の心は暗夜の如く暗く淋しさがひしひしと身にこたえた。

★モツト飲んでモツト仕事をしてもらいたかった。　矢部三郎

★君のご冥福とご遺族の御多幸を祈る。　牧野正治

お詫び

大野先生特集号について小林象三先生から御注意をいただきましたので謹んで御訂正申し上げます。

「他の諸君がどんな呼称をおつけになっても、御随意でありますが私のは次の通りで御座居ます」。

Wstanabe the Great
Ban the Good
Ono the Ab.e
Kamo the Efficient

以上は前号に掲載すべきで御座いましたが、紙面の都合上今回提載いたしますこと御許し願います。

楽我記

車掌の娘さん

松尾正路

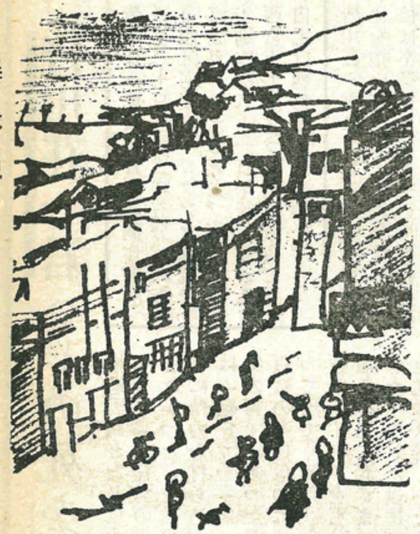
市バスに乗ると、乗客が座席につかないうちに車掌の娘さんが出発のブザーを押す。お年寄りや手荷物をかかえた婦人が座席にたどりつくのを見ていると、あぶなかしくてハラハラする。とけた雪がバスの床に凍りついている時などは危険このうえもない。

ある日、年配のご婦人が早すぎる発車の反動で足をすくわれ、横倒れにバスの床へころんでしまった。すぐかかえ起こしてあげたが、幸いケガはなかった。不思議なことは、こういう事件が車掌さんの責任ではないように信じられていることである。

先日、満員のバスだったので、振り落されないように昇降口の柱につかまっていると、突然、力いっぱい背中をなぐりつけた人があったのでふりかえると、車掌の娘さんがこわい顔をしてわたしをにらんでいた。背中がじゃまだというのである。わたしがにらみ返すと、こんどはもっと恐ろしいにらみ方で「いやな人…」といった。

中学を卒業したばかりの娘さんたちが終日バスにゆられて働いて三、四百円の賃金である。朝の始発が六時半だから、五時には起きて職場へ出かける娘さんもいるだろう。これは大変なことだと思う。勝手なことをいって申しわけないが、どうぞブザーだけは気をつけて押してください。

（北海道新聞から）



鈴の屋

神沢重治

（大一一）

久しぶりに伊勢参宮の途次秋ようやく深い松阪に下車した。蒲生氏郷の城下で、市街は戦略上ことさらジグザグと錯綜（さくそう）している。市の中央に城跡があり公園となっている。会津城を小さくしたような平山城で積み上げた石もいいし工作もすぐれている。なまじ天守閣など

楽我記

を復興することなく、数本の老松が亭々と天を摩しているのがかえって風趣ぶかい。本丸近くに国学者本居宣長の記念館があった。剌を通ずると、教育家上がりの気品ある老師が説明の労をとられる。有名な古事記伝稿本四十四巻や数多い版木の類がキチンと整とんして土蔵に収めてあり、遺愛の七種古鈴や大人自身が小児科医であったので、その用具とくすり箱も展示されている。土蔵の裏に旧宅が元のままで保存されている。三百余年前、曽祖父の代に建てられたもので、以前は市内の魚町にあったものを類焼をおそれて保存会がここへ移築したものという。本居家は代々もめん問屋を業としていた由で店の構造や玄関から奥庭まで土間が通じているところなど、典型的な上方（かみがた）商舗風の家である。風雅な石灯籠や泉石の配置など住む人に茶のたしなみのあったことがうかがわれる。

宣長より数えて六代目の当主は国学院大学を出て現在は神社本庁部長の要職にあるよし、名流の末孫はとかく不遇な例が多いのに、よき後継を得られた大人の幸せといわねばならぬ。なお昭和の初期に宣長の後裔（こうえい）と称して地方を巡演した童謡歌手のあったことを思い出しその女性の消息をたずねると〃それは養子の系統の長世（ながよ）さんですが名前負けして早く世を去りました〃とのことであった。ここは入場料を徴せず特志家の寄付によって維持されている様子であるが、松江の小泉八雲、糸魚川の相馬御風の如く旧居がそれぞれ由緒ふかい土地において周到に管理されていることは結構なことである。

松阪でもう一つ有名なのは和田金のスキヤキである。牛にビールをのませてあるので肉がやわらかくその美味は世界一、外人が多数押しかけるというので立ちよってみた。町並（まちなみ）に介在し何の変哲もない旧式の構えである。高松宮妃と清宮とが双方ともおしのびで駕をまげられたところ、はからずも玄関先で鉢合わせをし、さすがのプリンセスも頬を染められたというエピソードがある。ナルホドうまい、すぐお代わりを注文したが人間の胃袋には限度があるもの、どうにも消化し切れず残念ながらお手あげ、べんべんたる太鼓腹を撫（ぶ）して薄暮の駅へ向かう。ノドがむしょうに渇くので駅で立ち売りのミルクをもとめると、これまた甘露の味があった。

（伊勢市教育会長）

世界の味を創る

水垣敏正

（昭五）

昭五卒業の時は不景気のドン底、其上成績、行動共に警戒線上にあった自分には学校からの推薦などある筈もなく、河上、森戸先生の経営する労働学校に通ってみたがこれでは飯の種にならんので缶詰製造をはじめ、知らぬ間に三十余年を過ごした。業界報恩の意味からも「缶詰の方が美味しい」「居ながらにして舌の世界漫遊」「オリンピック迄に各国代表料理の缶詰セットを」などの夢を描いたその所産の一部が出来ましたので、最近少数の先輩にお贈りしました処、実は自分が驚く程の激励、推奨アイディアの数々を戴き、余りの勿体なさに感泣して居る次第です。二、三の例示をお許し戴くなら岡田春夫代議士は御自分では試食なさらずに十二月十日の例会に持出され、先輩各位に御披露せられその結果皆様から御熱意溢るる御言葉と共に大きな反響を戴きました。

石田熊市先輩の御嬢様多美子さんは新婚早々の御主人と御二人の寄せ書で「缶詰でこんな微妙なお味が出ますと馳け出し主婦には嬉しい悲鳴です」と熱々の甘い処を訴えられる。世話好きの同期北村太治郎君は「級友水垣の製品のPRに一役買って」と自腹を切って友人知己にバラ撒いてくれたり、越前谷君は「世界の味を創る男を如何にPRするか、我に考えあり」と株屋さんらしい激励が飛んで来る。

子供達は「お父さんの同窓って馬鹿みたいに親切なんだね!!」と全く緑丘人ならでは味わえぬ喜びです。

墓目氏は先生一流のアイディアを次から次とへ生み出して下さるうちに何はさておき緑丘人に味を知ってもらうことだ。是非一役買いましょうと乗り出される。自分としては余り商売気のある宣伝は差支えがあるからとお断りしたものの、全く緑丘の皆様の友情には勿体なく、この感激と悦びをわかちたい気持で一杯になりました。

同封ハガキは同氏の鉛案です。どうか御家族の皆様からどしどし御申付け戴き御批判願いたいのです。そして未完成なこの企画をほんとうの「世界の味」に完成させて下さい。

運搬界の夢を実現した
KYCコンベヤー
光洋機械工業株式会社
取締役社長　奥村正美（昭和17年）
本　　社　大阪市北区南同心町1丁目12　TEL大阪(351)3091(代)
東京支店　東京都千代田区神田小川町2丁目3(井上ビル)　TEL東京(291)1216.1309
九州営業所　福岡市中浜口町43番地　TEL福岡③1841

しも変りありません。

小樽の四寮で同じ部屋に暮していました時より早や二十五年になり、烏兎忽々と申しましょうか不惑の年も遠く過ぎました。

御元気で。

（熊本観光株式会社）

苫米地先生から

「緑丘」有難う、昨夜胸のすく思いで通読いたしました。見事な出来栄え、その蔭の努力犠牲をしのびました。

緑丘学人の心臓の役目を心から敬意を表します。

大平善梧氏から

十一月四日夜欧州から北まわりで帰日いたしました。「緑丘」二八号有難う存じます。

日本学術会議（二部）会員に当選しました。

立石市郎氏から

河内君（小谷）は天草郡有明町長として活躍しています。来年が選挙ですが評判がよいので再度当選確実です。

岡崎君は八代市内で食料品店を自営しています。山下政道君は大分県佐伯市内日本セメントの庶務課長をしています、

河内君も岡崎、山下両君も昔と少

大阪支部　十二月十日会

今月十日会の議題は新年宴会開催についての打合せと、故皆川荘一氏の追悼座談会であった。

今年はこの昼食会が最終会であった。十二月も半ばのことと支部長副支部長何れも出張中で欠席、新年宴会は一月十日を仮定して幹事一任となった。

昭和十二年卒、皆川氏の逝去について逝去の報告、生前の彼のことなど幹事長より説明あって、親しかった同期の内藤、田中の諸君と福岡から大阪へ帰って来た桜井君（昭二三）など思い出を話されて午後一時半解散した。

本日の出席者

宮地邦介（大一一）　大竹政雄（大一二）　畑信太郎（大一四）　黒羽秀夫（昭二）　宇山慶三（昭四）　大島三郎（昭一〇）　墓目英三（昭一一）　八尾勝郎、内藤好生、田中正三（昭一二）　若山永太郎（昭一三）　桜井純一（二三）

お知らせ

大阪支部十日会は毎月十日の十二時から一時間、アサヒビヤホール（同和火災ビル地下＝梅田新道交叉点東南角）で開催しております。

緑丘若人の情報交換の場として大いに利用しましょう。

二月十日（日）　中止

三月十日（日）↓**三月十一日**に変更して開催します。

つどい原稿募集

同期の皆様の会合は写真を添えて御送り下さい。

一行十六字でお書き下されば編集上助ります。原稿用紙は編集部にございますから幹事の方は御申越下さい。

（原稿送附先）

大阪市東区道修町三丁目十二

塩野義製薬㈱内　墓目　英三宛

編集後記

新年おめでとうございます。

◎小樽特集号を企画したのが九月でした。その後小樽緑丘会が誕生して小樽の緑丘人は会合を度々持ち活発な活動を開始しました。この特集号もその一翼を担う事が出来れば幸いでございます。今回の編集は小樽越崎清二氏（昭一一）のご努力によって出来たと申せませう。

大阪と小樽の間で遠隔操作をしながら四〇頁の特集号が出来上った事は今後九州地区、青森地区とも連絡をとって特集を計画し、緑丘会発展のための一布石となり得る自信をつけました。

何卒関係地区特集の御希望が御座いましたら御申出で下さい。

◎〝伴房次郎先生の書翰と追憶〟の計画をすゝめておりますが申込みが少く悲観的になっておりました所伊豆で論文を執筆中の板垣先生（一橋大学）から激文をいたゞき有難う御座いました。春頃から上梓の段取りに入らねばならぬと思います。追憶記まだの方は何卒御投稿願います。

〆切を三月末とします。

写真、書翰（主にハガキ）遺墨も拝借し度いものです。

製本の予定もありますので御申込みを大至急願います。

◎本年もあと一号（既刊五号―内合併一冊）で終りますが三十八年度申込みは次号で発表いたします。其時は早目に御手配下さい。（年六回五〇〇円）

広告についてお願い

たどたどしく五年間続けて来た緑丘があと一冊発刊して六年目に入りますが、ここまで続刊出来ましたのも広告スポンサーのお蔭と感謝しております。

あとまだ編集意欲をソウ失させず続刊出来ますよう、年間契約のお申出ありますことを待っております。

価格（一回）

四分一段　一五㌢×五㌢　三、〇〇〇円

二分一段　三〇㌢×一〇㌢　六、〇〇〇円

裏表紙　全紙面　一二、〇〇〇円

但し年間契約の向きはご相談に応じます。

緑丘人の家庭に贈る

世界の味

MCC HOME COOKING

世界の味

全国デパートで発売中

料理罐詰

コシア風　ボルシチ
イタリヤ風　ミートソース
ハンガリー風　ビーフシチュー
印度風　ビーフカレー
英国風　トマトスープ
アメリカ風　コーンスープ
オランダ風　いちごジャム
ポルトガル風　ママレード

ひとこと

家庭に居ながらにして、「舌の世界漫遊」をしようというのが、これの狙いです。

このメーカーの水垣さん（MCC食品㈱社長）は舌の達人で世界各国味の行脚をしてその結果の所産です。

とも角食べてごらんなさい、きっとマニヤになります。

川島四郎

農博（栄養と食糧の研究者）

エム・シー・シー食品株式会社

神戸市長田区苅藻通5丁目15　TEL代（67）1245

取締役社長　水垣敏正（昭5）